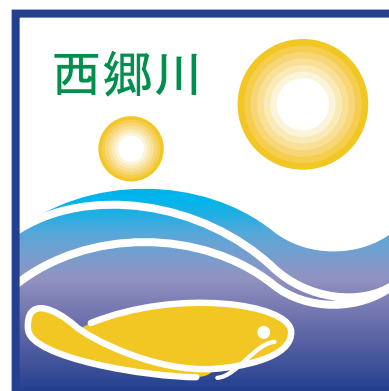


泳げる川、西郷川をめざして

西郷川リバー基本計画

今つくろう、
心に残る
ふるさとの川。



西郷川リバー基本計画の「リバー」とは・・・

「リバー」とは、英語の「**Rebirth**=再生・復活・生まれ変わる」と「**Rivers**=リバー（川）の複数形・川たち」と「**Reverse**=（きれいな川に）戻す」を意図した言葉です。西郷川とその支流をよみがえらせ、昔のような美しい豊かな川に戻したいという願いが込められています。



福間町

平成13年3月 福間町

「泳げる川、西郷川」をめざして

—今と未来の子どもたちへ—

西郷川は、子どもたちが四季を通じて魚釣りや水遊びを楽しむ場所であり、水のせせらぎやきらめきは私たちにやすらぎを与えてくれました。そして、その周辺に住む人の生活の場所として深くかかわってきました。

しかし、近代化と生活のしかたの変化などで川は清らかな流れを失い、人はそれを目の前にして心をいためています。

西郷川で遊んだ思い出のある大人たちは、きれいな川で遊んだ記憶を子どもたちに伝えながら「ふるさとの川をとりもどしたい。」と思っているにちがいありません。

「まちづくり子ども会議」で、子どもたちからも「泳げる川、西郷川」が提案され、私は、今と未来の子どもたちのために、そして私たち大人のふるさとの川を取り戻すために、これを実現しなければならないと強く感じました。

「西郷川リバー基本計画」は、私たちの西郷川を再生するための計画です。

実現には長い時間がかかりますと思いますが、皆さんとともに「泳げる川、西郷川」目指して、その道のりを歩いていきたいと思います。

2001年3月

ふく まちようよう いけ うら より ふみ
福間町長 池 浦 順 文

目次

「泳げる川、西郷川」をめざして 西郷川リバー基本計画

	ページ
第1章 西郷川リバー基本計画の目的と位置づけ	1
1. 計画をつくる理由	1
2. 計画を実行するのは「私たち」です	2
3. 計画をつくるときに考えたこと	3
4. この計画とその他の計画の関係について	3
第2章 西郷川とその周辺の様子	5
1. 川とその周辺の自然・社会環境	5
2. 水質の現状と課題	11
第3章 西郷川リバー基本計画がめざすこと	13
1. 計画の目標	13
2. 計画の合い言葉	14
第4章 具体的な行動について	16
1. ふれあおう、ふるさとの川。	17
2. よみがえらせよう、ふるさとの川。	33
3. もっと知ろう、ふるさとの川。	41
第5章 西郷川リバー基本計画をすすめていくために	49
1. 実施体制	49
2. 実施スケジュール	50
用語集	51

第1章 さいごうがわ 西郷川リバー基本計画の目的と位置づけ

1. 計画をつくる理由

さいごうがわ 西郷川は、ふくままち 福間町の本木山に生まれ、町の中心を流れげんかいなだ 玄界灘に注いでいます。川の流域面積は約25km²、長さは約10kmです。

川の土手はコンクリートで固められていますが、川の中には砂がたまり、そのたまった砂の所にはヨシなどの植物が生え、そこをすみかにしている生き物がいます。このようにさいごうがわ 西郷川には、まだ自然を感じるところも残っています。

しかし、さいごうがわ 西郷川とその周辺は、私たちの生活のしかたが変わったため水が汚れ、動物や植物などの生き物たちがすみにくくなっています。さいごうがわ 西郷川のきれいな水をよみがえらせ、生き物たちを守り育てるためには、家庭などから出る排水を集めてきれいにする公共下水道の整備が最も効果的な方法ですが、大きな団地以外は整備ができています。

将来、公共下水道を整備すると、さいごうがわ 西郷川の水質はきれいになります。しかし、整備が終わるのをじっと待つのではなく、今できることをすぐに始めることが大切だと考えています。

また、私たちは水質の問題だけではなく、災害がおきないようにしたり、川の水を上手に利用したり、豊かな自然をよみがえらせるなど、多くの問題にも目を向ける必要があります。

さいごうがわ 西郷川は、大切な自然であり生命の源です。この大切なさいごうがわ 西郷川を、次の世代へ引きついでいくために「ふるさとの川、さいごうがわ 西郷川」をよみがえらせなければなりません。このようなことから、ふくままち 福間町は「さいごうがわ 西郷川リバー基本計画」をつくることにしました。

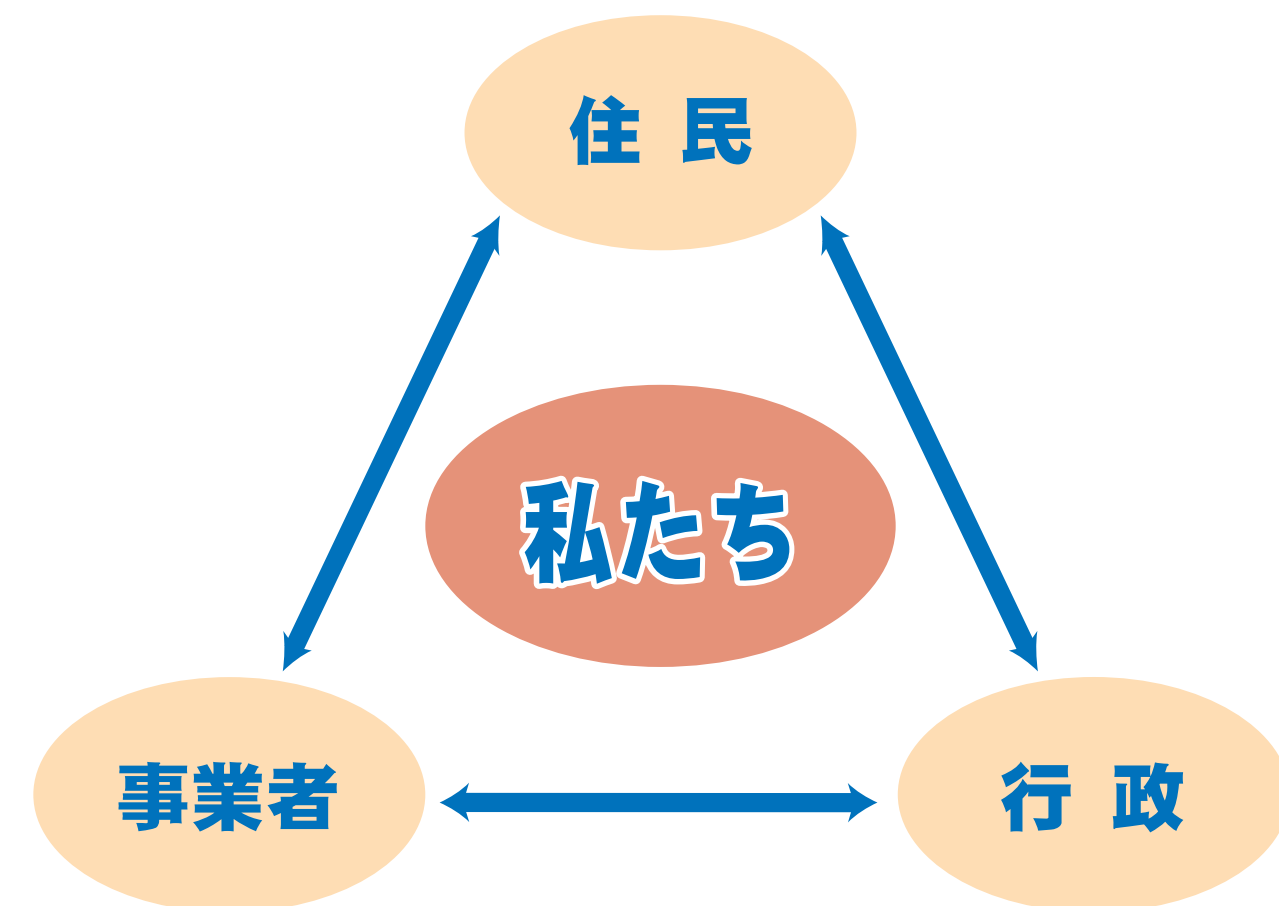
「リバー」って何？

「リバー」とは、英語の「**Rebirth**=再生・復活・生まれ変わる」と「**Rivers**=リバー（川）の複数形・川たち」と「**Reverse**=（きれいな川に）戻す」を意図した言葉です。さいごうがわ 西郷川とその支流をよみがえらせ、昔のような美しい豊かな川に戻したいという願いが込められています。

2. 計画を実行するのは「私たち」です

この計画で「私たち」とは、住民・事業者・行政のすべてをさしています。住民・事業者・行政がしっかりと手を取りあって、この計画を確実に実行していくことにより「泳げる川、さいごうがわ 西郷川」が現実のものとなります。

私たちが主役です。さいごうがわ 西郷川をよみがえらせるため、いっしょに行動しましょう。



3. 計画をつくるときに考えたこと

さいごうがわ

「西郷川リバー基本計画」は、3つの基本的な考え方でつくりました。

- (1) 心に残るふるさとの川をつくること
- (2) 「泳げる川、さいごうがわ西郷川」をめざし、10年後、20年後、30年後の水質目標を定め、その目標を実現すること
- (3) さいごうがわ西郷川で私たちが環境について学べるようにしていくこと

4. この計画とその他の計画の関係について

さいごうがわ

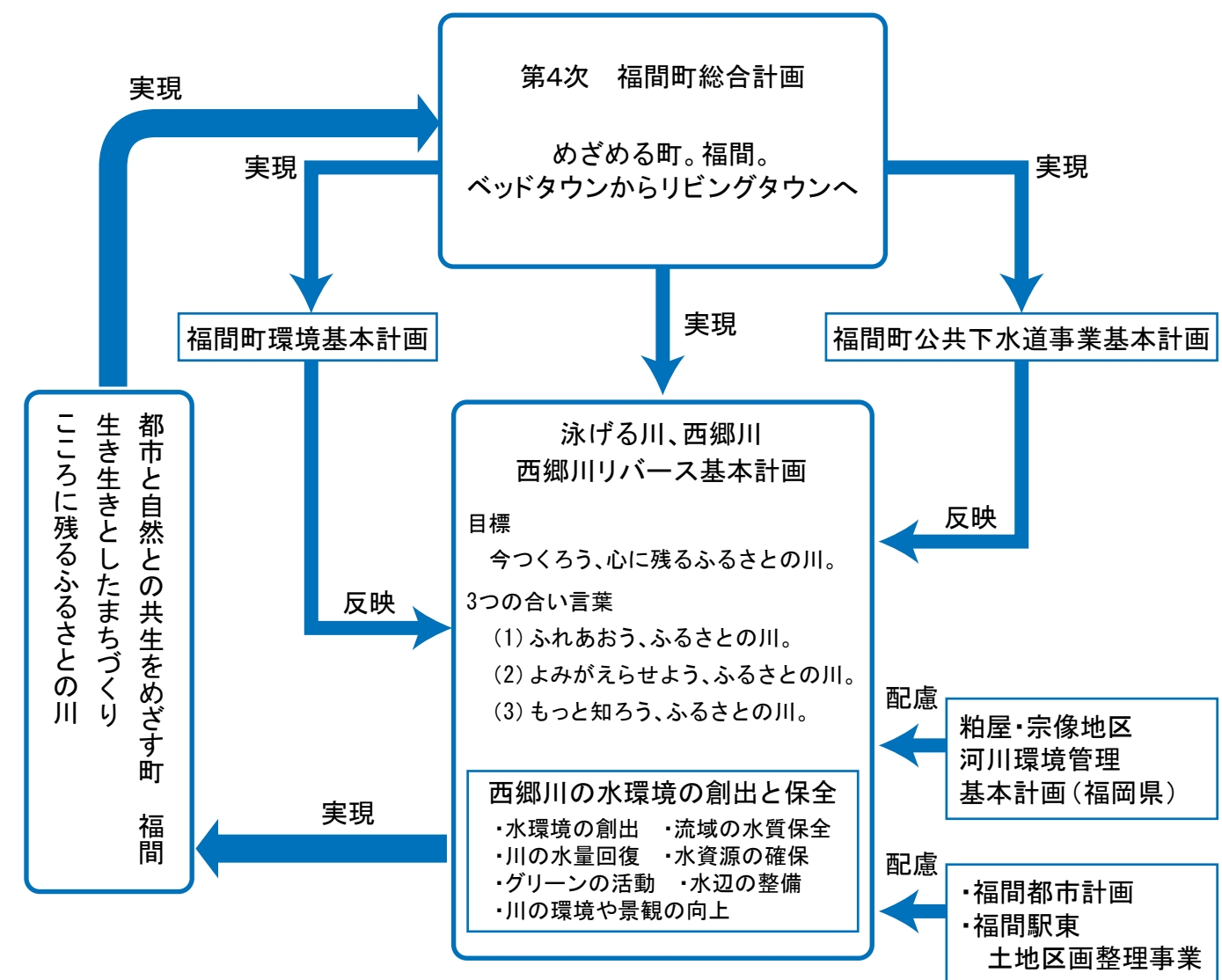
この「西郷川リバー基本計画」がめざしていることを実現するためには、その他の計画や事業と手を取りあっていかなければなりません。

- だい第4次福間町総合計画
- ふく ま まちかんきょうきほんけいかく福間町環境基本計画
- ふく ま まちこうきょうけ すいどうじ ぎょうき ほんけいかく福間町公共下水道事業基本計画
- ふく ま と し けいかく福間都市計画
- かす や むなかつち く か せんかんきょうかん り き ほんけいかく ふくおかけん粕屋・宗像地区河川環境管理基本計画（福岡県）
- ふく ま えきひがしとち く かくせいりじぎょう福間駅東土地区画整理事業

これらの関係について、次のページの図を見てください。

さいごうがわ

● 西郷川基本計画の位置づけ ●



第2章 西郷川とその周辺のようす

1. 川とその周辺の自然・社会環境

(1) 自然環境

●川とその周辺

西郷川は本木山に生まれ、上流部は自然豊かな里山、中流部はのどかな田園、下流部は活気あふれる市街地と、福岡町のさまざまな風景の中を流れ、玄界灘に注いでいます。西郷川の周辺の状況は、山地が66%、平地が34%となっています。

福岡町を一枚の葉っぱにたとえると、西郷川とその支流は、まるで網の目のように広がる葉脈のようです。

西郷川は福岡町だけを流れ、飲料水や農業用水など、私たちの暮らしを支えている母なる川といえます。



(2) 川にすむ生物たち

●魚類および貝類

西郷川やその支流は、カマツカ、オイカワ、カワムツ、コイ、ギンブナ、ドンコなどの魚がすんでいます。しかし、水質の悪化や川の改修工事の影響などにより、最近では魚の種類や数は減ってきています。川の環境をよくなり、魚たちがすみやすくすることが大切です。

また、河口付近には、イシマキガイという貝がすんでいます。このイシマキガイは、環境の変化により県内各地から姿を消している貴重な種類です。これからも、このイシマキガイのすみよい環境を守り育てていかなければなりません。

資料：福岡町自然環境調査報告書 平成12年12月



カマツカ



オイカワ



カワムツ



コイ



ドンコ



イシマキガイ



ハート先生の豆知識

「魚がすむことができる水質はどのぐらいなの？」

きれいな水質でしかすめない魚や、比較的悪い水質でもすめる魚がいます。魚がすむことのできる水質をBODで表すと、ヤマメやイワナなどは約2mg/L以下、サケやアユなどは約3mg/L以下、コイやフナなどは約5mg/L以下です。

●鳥類

さいごうがわ 西郷川やその周辺には、ミサゴ、ハヤブサ、ハイタカ、カワセミ、バン、マガモ、サギなど多くの鳥がすんでいます。巣づくりやえさ場、休息場として川を利用しています。特に、ミサゴ、ハヤブサ、ハイタカは日本でもその数が減り大変貴重な種類です。

資料: 福間町自然環境調査報告書 平成12年12月



ミサゴ



ハヤブサ



ハイタカ



カワセミ



バン



マガモ



アオサギ

さいごうがわ
(3) 西郷川の周辺の社会環境

●人口・産業

ふく ま まち 福間町の人口は、住宅地の開発を中心に増加し、平成13年2月末現在で42,032人となっています。ふく ま まち じゅうみんき ほんだいちよう (福間町住民基本台帳)

農業や漁業や林業などの第1次産業で働く人はだんだん減ってきて、全国平均と比べると工業などの第2次産業、サービス業などの第3次産業で働いている人の割合がやや高くなっています。

●自然公園区域

さいごうがわ 西郷川が海に流れ込むところと ふく ま かいがん 福間海岸は、美しい景色と豊かな自然環境をもち「げんかい こくていこうえん 玄海国定公園」として指定されています。



●下水道などの整備状況

福岡町下水道などの施設は、公共下水道2区域、コミュニティプラント3区域、都市下水路5本が整備されています。

公共下水道を利用している人は、町の人口の14.8%です。コミュニティプラントを利用している人を含めても39.8%となっており、公共下水道の整備が急がれます。

●下水道などの整備状況●

		処理区域面積 (ha)	計画人口 (人)	現在人口 (人)
公共下水道	東部下水道処理区域	62.5	8,000	5,203
	千鳥下水道処理区域	14.2	1,300	1,026
コミュニティプラント	北原下水道処理区域	14.0	3,500	1,100
	若木台下水道処理区域	65.0	9,725	4,719
	光陽台下水道処理区域	65.3	9,075	4,683
計		221.0	31,600	16,731
		排水面積 (ha)	水路の長さ (m)	
都市下水路	福岡都市下水路	43.0	900	
	本町都市下水路	30.0	790	
	北部第一都市下水路	37.0	660	
	四角都市下水路	85.0	1,460	
	苅目川都市下水路	96.0	1,500	
計		291.0	5,310	

資料:福岡町公共下水道事業全体計画概要書 平成13年3月



●下水道の整備状況 平面図●

(4) 治水、利水の状況

●治水の状況

洪水で堤防がこわれ、川の周辺に住む人の命や財産に危険がおよばないようにしたり、かんがいの便をよくするため、川の改修工事を行っています。

西郷川の改修工事は、浜田橋上流部分1,620mが行われ、平成2年度に完成しています。

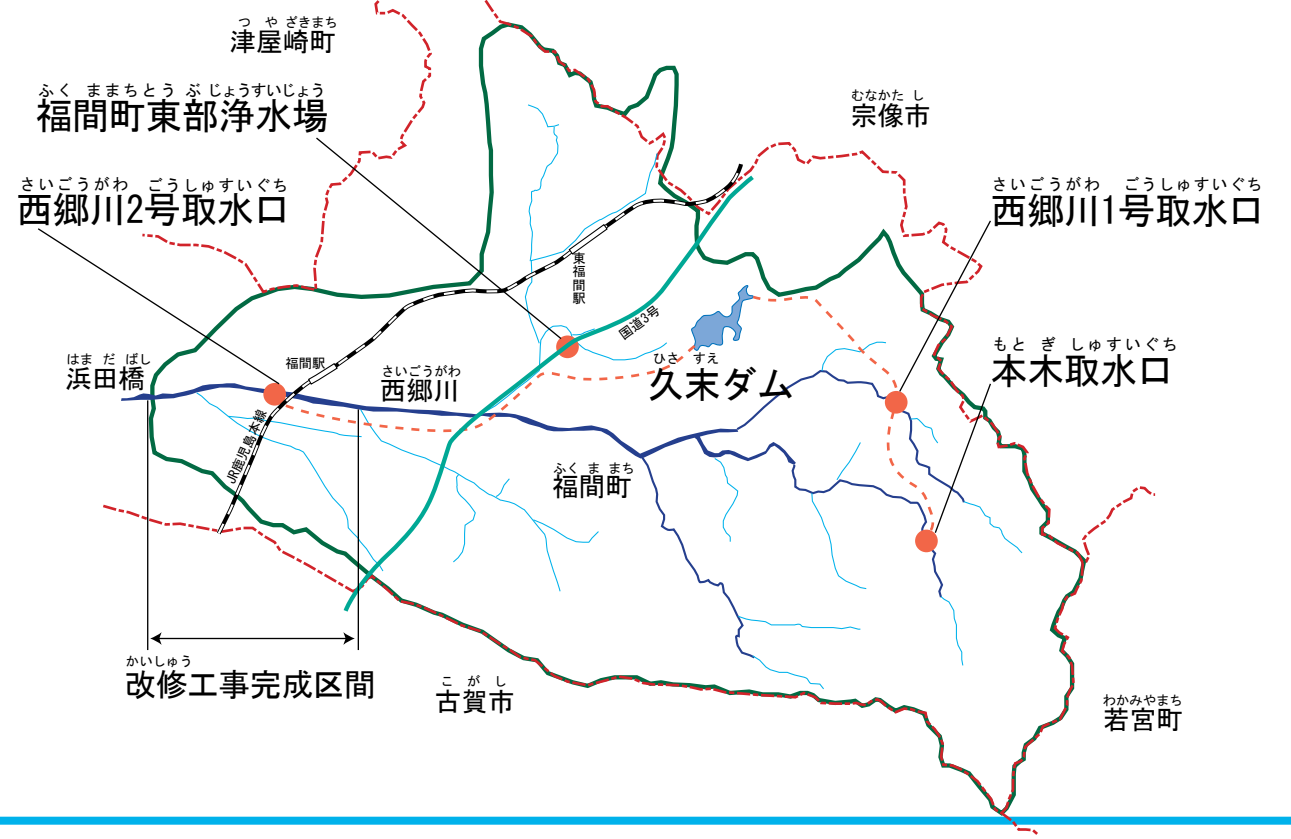
●西郷川の改修工事について●

川の名称	流域の面積	改修長さ	着工年度	完成年度
西郷川	25.40km ²	1,620m	昭和36年度	平成2年度

●利水の状況

西郷川を流れる水は、福岡町の上水道の水源として3つの場所（本木取水口、西郷川1号取水口、西郷川2号取水口）から水を取り、久末ダムに貯えています。そして、その水は福岡町東部浄水場できれいにされ、水道水の約7割をまかなっています。（平成11年度福岡町水道事業決算書）

また、川沿いに広がる農地の農業用水として、西郷川やその周辺の川から水が取られています。



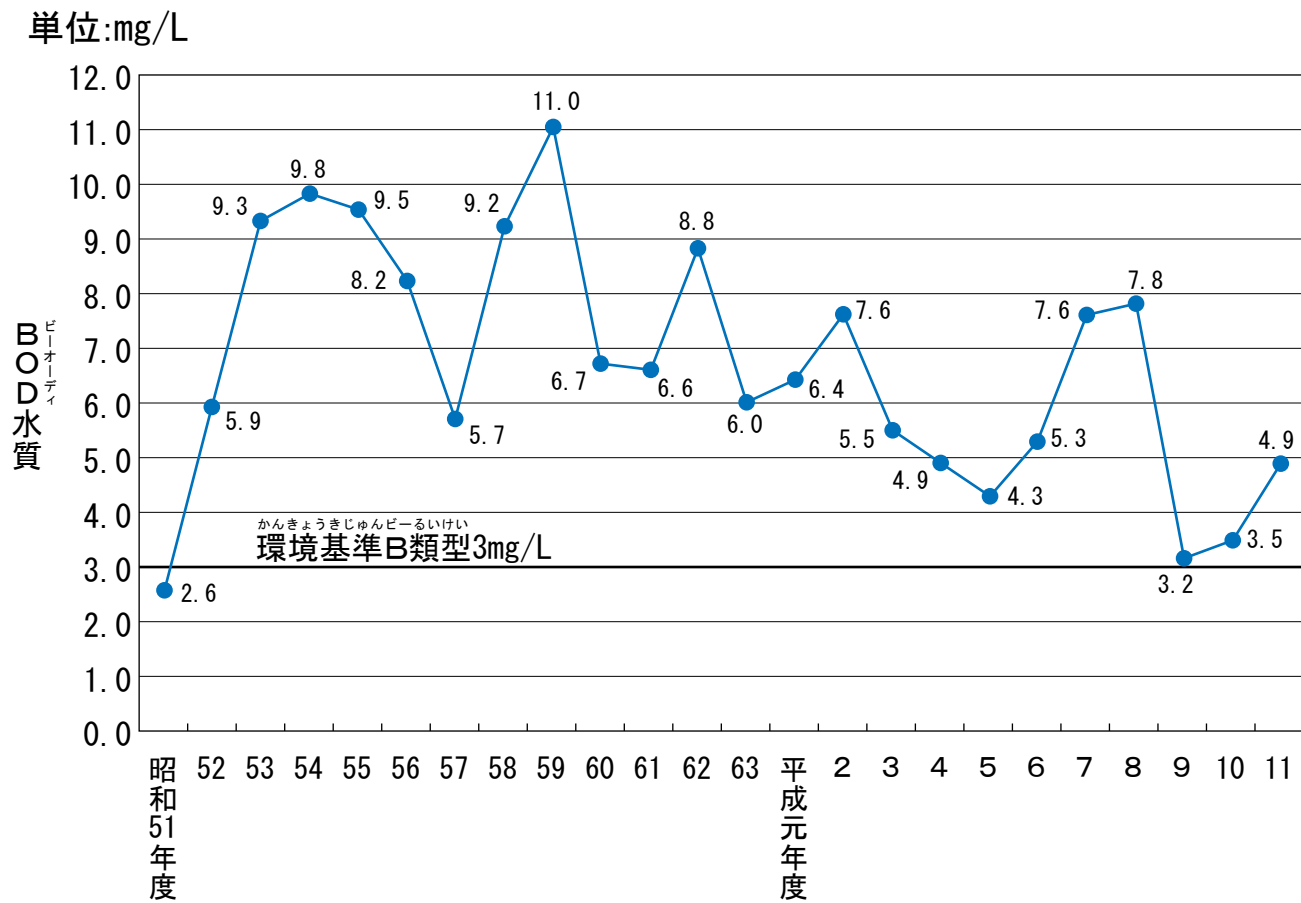
2. 水質の現状と課題

(1) 水質環境基準点（浜田橋）での水質

西郷川は「生活環境にかかわる環境基準（河川）」のB類型に指定されていて、水の汚れ具合を表す代表的な指標であるBOD（生物化学的酸素要求量）基準値は3mg/L以下とされています。このBODについて、環境基準点である浜田橋での水質の移り変わりを下の折れ線グラフに示します。

この結果をみると、西郷川では環境基準を満たすことができない状況が続いています。

●西郷川の水質の移り変わり（浜田橋地点、福岡県測定）●



※基準値3mg/Lは75%値です。資料: 福岡県環境白書(各年)

(2) 西郷川に流入する川と水路の水質

西郷川に流入する桜川と井尻川のBOD（生物化学的酸素要求量）の平均値は、それぞれ4.2mg/Lと7.2mg/Lであり、西郷川の環境基準である3mg/Lを超えています。また、流入する福岡都市下水路や寺溝排水路のBODは20mg/L前後で環境基準値の約7倍の水質であり、とても悪い状況となっています。

このように、西郷川下流部の水質は流入する水路の水質の影響を強く受けているといえます。



福岡都市下水路の流入地点(平成12年6月撮影)



寺溝排水路の流入地点(平成12年6月撮影)

第3章 さいごうがわ 西郷川リバー基本計画 がめざすこと

1. 計画の目標

私たちは、心に残るふるさととして、いろいろな思い出をもっています。そしてその思い出の中に、川はいつもあります。幼い頃、夕暮れまで遊んだあの川、学校帰りに道草したあの川、とんぼを追いかけてメダカをすくったあの川。友達とふれあい、遊んだ思い出は、いつまでも心に残っています。

私たちは大人になり、思い出を胸にそれぞれの世界に旅立っていきます。時が流れ、いろいろな世界を経験し、ふるさとに帰ってきたとき、私たちは子どもの頃過ごした友達、風景、自然を思い出としてなつかしむことでしょう。いろいろなことが変わっても、川などの自然が私たちを昔と同じように、やさしく迎えてくれたら、どんなにうれしいことでしょう。将来、心に残るふるさとの川がきれいであれば、どんなに素晴らしいことでしょう。

そのために、さいごうがわ 西郷川をもっと知り、きれいな川によみがえらせ、川とふれあい、心に残るふるさとの川を育てていかなければなりません。

森が海を育てるといいますが、森と海をつないでいるのは川です。私たちは川を育て、川は私たちを育ててくれます。そして、ふるさとと私たちをつないでくれています。「私たちのふるさとの川をそんな川にしたい」。この願いは、みんなの力と汗が集まらないとかなえられません。小さな川の流れが集まり大きな流れとなるように、小さな力を集め大きな力にしたいと思いませんか。

この願いを込めて、私たちはこの計画をつくりました。そして、この計画の目標を、次のように決めました。

目 標

今つくろう、
心に残るふるさとの川。

2. 計画の合い言葉

この目標を実現するために、私たちは次の3つの言葉を合い言葉に、行動を始めます。

3つの合い言葉

- (1) ふれあおう、ふるさとの川。
- (2) よみがえらせよう、ふるさとの川。
- (3) もっと知ろう、ふるさとの川。

(1) ふれあおう、ふるさとの川。

昔、子どもたちは四季を通じて川で魚釣りや水遊びを楽しんでいました。

また、大人たちも川を利用しながら暮らしてきました。しかし、20世紀に入り近代化と生活のしかたの変化などで川は汚れ、多くの川は清らかな流れを失いました。また、治水ちうすいや利水りすいを優先したために、川の土手はコンクリートで固められ、人は川から遠のいていきました。

私たちは、川に人をよびもどす行動をおこななければなりません。

(2) よみがえらせよう、ふるさとの川。

現在のさいごうがわ 西郷川の水質は、かんきようきじゆん 環境基準を達成できていません。かんきようきじゆんち 環境基準値（ビー オー ディ BOD3mg/L）を達成するためには、こうきようげ すいどう 公共下水道を整備する必要がありますが、整備には長い年月を必要とします。こうきようげ すいどう 公共下水道の整備をすすめながら、市街地を流れる水路や川を直接浄化ちよくせつじようかしていきます。

川をよみがえらせるためには、水質の問題とともに、水量の問題があります。

海や湖などの水面から蒸発した蒸気は、大空に昇り雨となって空から降ってきます。雨は、森や畑などの大地に恵みを与え、土にしみこみ地下水となり、やがて川となって、海に注いでいます。水は自然の中で形を変え、めぐりめぐって流れているのです。このようなことを「自然の水循環みずじゆんかん」といいます。自然の水循環をよみがえらせることで、川もよみがえります。

川をよみがえらせるためには、このように「水質」と「水量」二つについて行動していかなければなりません。

(3) もっと知ろう、ふるさとの川。

川をきれいするためには、施設の整備も必要ですが、川のことをもっと知ることも大切です。川が一体どういう状況なのか、そこでどんな生命が育まれているのか、こういうことを知ることが川への親しみを生み出します。

たとえば子どもたちは、小・中学校で平成14年度から本格的に始まる「総合的な学習の時間」などで水環境を学習する機会が増えていきます。小学校では「流れる水のはたらき」などを学習したりします。そして、子どもたちばかりでなく大人たちも、川についての学習をすすめていかなければなりません。

この計画では、学習する場所の整備もすすめていきますが、学習する機会も増やしていきます。

このような環境学習をすすめていくことが「泳げる川、西郷川」の実現にとっては、もう一つの大きな力となります。



ほたるの里(本木川自然公園)において川の様子を調べる「まちづくり子ども委員」(平成12年8月撮影)

第4章 具体的な行動について

ここでは、目標の実現のために定めた3つの合い言葉にそった、具体的な行動について明らかにします。

美しい水環境をめざして心に残るふるさとの川をつくっていくためには、西郷川だけを考えるのではなく、西郷川とその周辺全体を考えて行動していくことが大切です。

そのような行動には、環境にやさしい技術(グリーンの技術)を使って、自然をとりもどしたり、水質をよくして美しい川をよみがえらせるような「グリーンの技術による行動」と、美しい水環境をめざしていろいろな活動をする「グリーンの活動」をすすめていきます。その二つが活発に行われることで美しい水環境が実現されます。

●グリーンの技術による行動とグリーンの活動●

	基本になる考え方	行動メニュー
グリーンの技術による行動	1. ふれあおう、ふるさとの川。	(1) 川の駅と西郷川プロムナードの整備 (2) 自然あふれる川づくり (3) なまずの学校の開校 (4) 集いの公園の整備 (5) お花見の土手づくり (6) アユがのぼれる川づくり (7) 田んぼのビオトープづくり
	2. よみがえらせよう、ふるさとの川。	(1) 具体的な水質目標の設定と実現 (2) 公共下水道の整備 (3) 川の直接浄化 (4) 水辺の再生 (5) 水循環による水量の回復 (6) 雨水利用の促進
グリーンの活動	3. もっと知ろう、ふるさとの川。	(1) 「又ぜーの森」づくり (2) ボランティア活動の充実 (3) 西郷川の情報の共有と学習の推進 (4) 学校や地域の活動 (5) 西郷川めぐりと里山探検 (6) 「西郷川の日」の設定 (7) 稚魚の放流 (8) 啓発活動の推進

コラム

「グリーンの技術」

これまでの技術は、いろいろな開発や、鉄道、道路などの都市構造の基盤となる施設の整備を目的として発達し、その目的のためだけに使われ、環境破壊につながるケースが多かったようです。しかし、これからは、そのような技術ではなく、環境を保全するための技術、または、開発などを行う場合でも環境保全を配慮した環境にやさしい技術が求められるようになるでしょう。私たちは、そのような技術を総称して「グリーンの技術」と呼んでいます。

コラム

「グリーンの活動」

私たちは、環境を保全するための活動、または、環境との共生をめざした活動を総称して「グリーンの活動」と呼ぶこととしました。

1. ふれあおう、ふるさとの川

(1) 川の駅と西郷川プロムナードの整備
(つなごう、水と緑のネットワーク)

西郷川は福岡市のふるさとの川として、上流部は自然豊かな里山、中流部はのどかな田園、下流部は活気あふれる市街地と、福岡市のさまざまな風景の中を流れ、玄界灘に注いでいます。

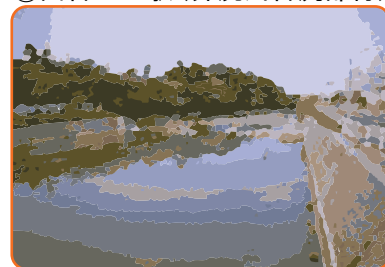
このように、さまざまな表情をもつ西郷川には、すばらしい場所が多くあります。そこで、西郷川を楽しんだり学んだりする場所として、8つの「川の駅」をつくります。川の駅はそれぞれの場所の長をいかし、水遊びや休息、自然観察などができるように整備し、西郷川や福岡市の自然・歴史などを学べる場所とします。

さらに、西郷川の堤防や川沿いの道路を利用して歩くことができるように川の駅を「西郷川プロムナード」でつなぎます。西郷川プロムナードは川の駅を通りながら西郷川を上流から下流まで歩くことができる道です。

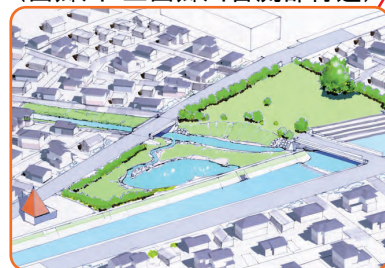
川の駅や西郷川プロムナードは、福岡市の環境を守っていくためのさまざまな取り組みを行う場所でもあります。

私たちが、環境について学び環境保全のために行動するきっかけとしましょう。

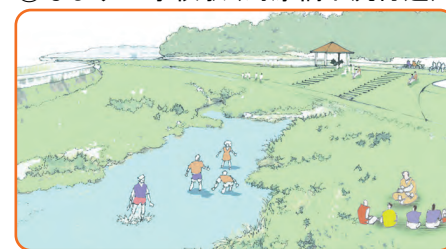
①出合いの駅（井尻川合流部付近）



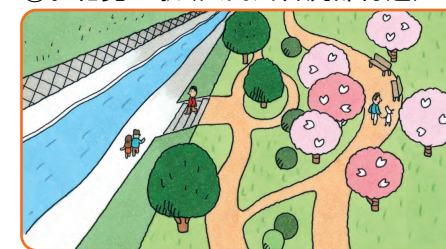
②花の駅（旭橋～越田橋）

③くつろぎの駅
(西郷川2号取水口付近)④集いの駅
(西郷川・上西郷川合流部付近)

⑤なまずの学校駅（河原橋下流付近）



⑥お花見の駅（大内川合流部付近）



⑦学びの駅（大明神橋付近）



⑧里山の駅（一ツ橋上流付近）



コラム

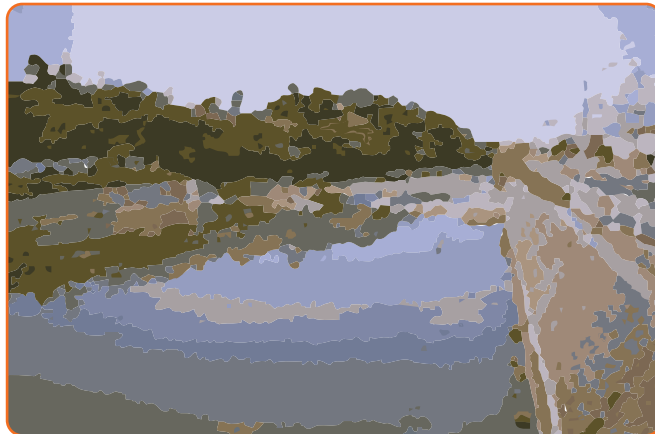
「川の一里塚」

これらの行動をたどるなら、「川の駅」は宿場町、「西郷川プロムナード」は街道です。昔の街道には距離を示す一里塚がありました。そこで、西郷川プロムナードには、「川の一里塚」として西郷川に沿って1kmごとに目印となる木を植えます。そして、目印となる木と木の間に、四季をつうじて植物を楽しめるようにいろいろな種類の草木を植えます。植物を植えたり育てたりする活動は、福岡市環境基本計画に示している「住民トラスト運動」や「公共エリア環境づくり事業」などを活用し、私たちの手によって行います。西郷川リバース基本計画の実現には長い年月がかかりますが、「川の一里塚」を毎年少しずつ増やしていけば、西郷川沿いに増えてゆく緑が、西郷川リバース基本計画のすすみ具合を表すバロメーターにもなってくれます。

せき
川の名
川の駅
西郷川プロムナード

0m 500 1000 1500 2000

川の駅

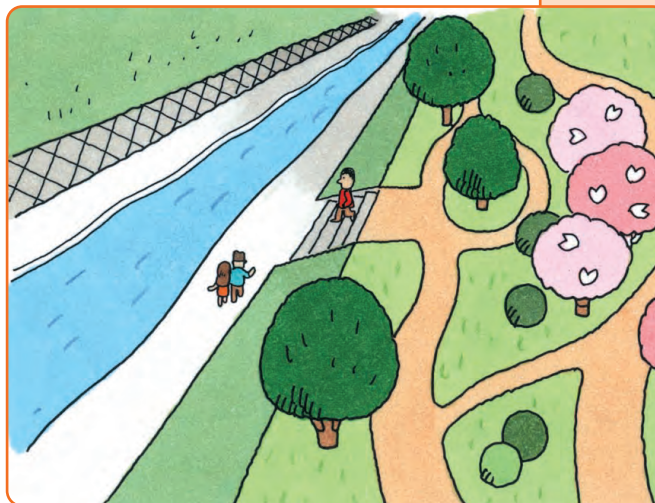
① 出会いの駅（井尻川合流部付近）
いじりがわ

ここは、福間町の観光資源の一つである美しい海岸と西郷川が出会う場所です。潮の満ち引きにより水深が変化するので、一風変わった水遊びができます。

また、川の南側にはすばらしい河畔林があり、自然豊かなおちついた景色が楽しめます。

浜田井せきより海側は海水と川の水がまじりあい、大変貴重な貝類であるイシマキガイがすんでいます。

豊かな緑や自然を残すため、河畔林やイシマキガイを守る活動を行い、西郷川河口のすぐれた自然環境を守っていきます。

② 花の駅
あさひばし こしだばし
（旭橋～越田橋）

西郷川は、住宅や商店等が集まっている市街地にいるおいを与えています、水が汚れているため住民から親しまれる川にはなっていません。

そこで「花いっぱい運動」や「公共エリア環境づくり事業」をすすめることで、現在この場所で行われているアジサイなど草花を植えていく運動を支え、西郷川沿いに木や草花があふれる魅力的な景観づくりに取り組んでいきます。私たちは、これらの緑化保全活動に積極的に参加していきます。

※「花いっぱい運動」は平成11年度「まちづくり小学生会議」における発言です。

※「公共エリア環境づくり事業」は、福間町環境基本計画に示されている行動です。

③ くつろぎの駅（西郷川2号取水口付近）
さいごうがわ ごうしゅすいぐち

福間駅東土地区画整理事業により、駅前道路や歩行者道路が整備される予定です。

そこで、駅の利用者や住民が気軽に立ち寄り、川をながめながらひと休みし、くつろげる空間として、西郷川と一体となった公園を整備します。

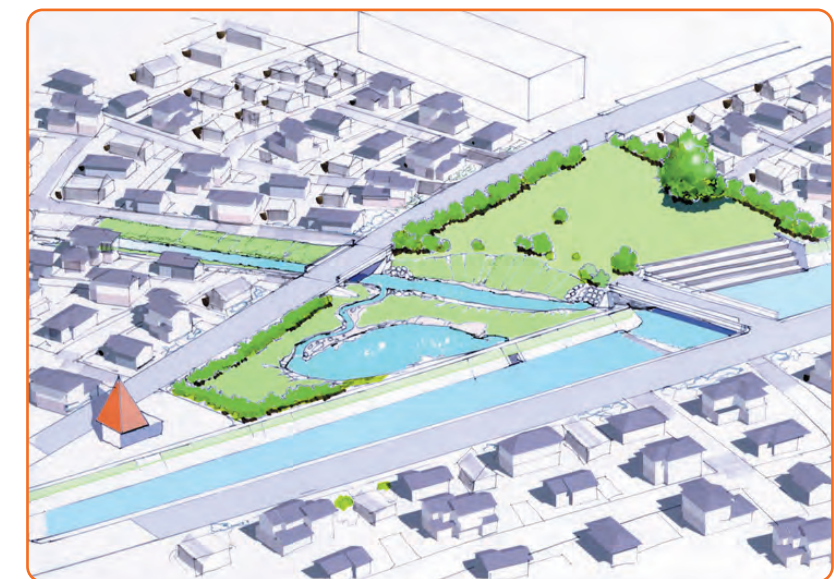
まちの緑を増やすことやまちをきれいにする行動を行い、西郷川を利用した快適な空間をつくっていきます。

④ 集いの駅（西郷川・上西郷川合流部付近）
つど さいごうがわ かみさいごうがわ

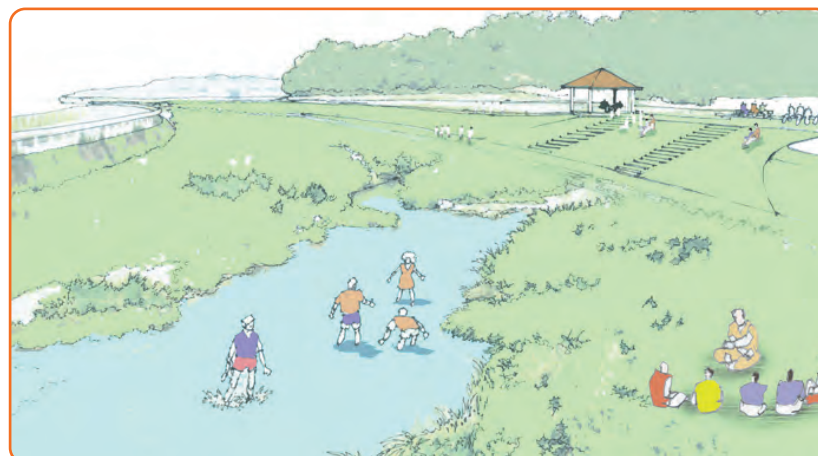
ここは、多くの人が集い、川とふれあえる公園として整備します。

この公園は、中心市街地に近く利用しやすい場所にあるため、8つの「川の駅」のかなめとして、3月15日の「西郷川の日」や「環境保全のための行動」の活動拠点とします。

また、西郷川の自然や歴史を紹介する案内板を設置して、楽しんだり学んだりする場所を設け、多くの人に川の魅力を知ってもらう場所にします。



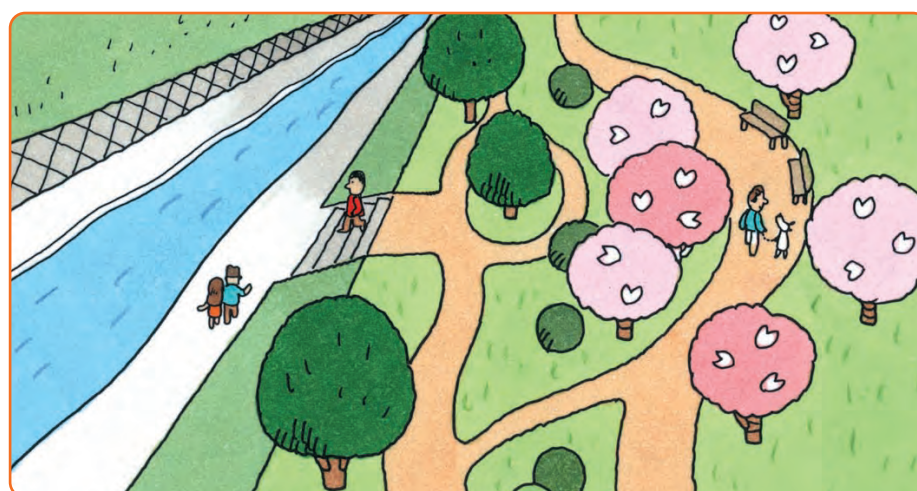
⑤なまずの学校駅かわはらばし（河原橋下流付近）



ここは、自然のすばらしさや大切さを学ぶ環境学習の場所となるよう整備します。

この「なまずの学校」は、自然環境を生かして「環境保全のための行動」や環境学習の活動拠点とします。

⑥お花見の駅おおうちがわ（大内川合流部付近）



ここは、川沿いに木を植えたり散歩道などを設置し、大人も子どもも楽しめる場所として整備します。

この場所は、草花や川の風景を見ながらゆっくりとくつろげる場所になります。

⑦学びの駅だいみょうじんばし（大明神橋付近）

ここは、川幅3m程度と狭いのですが、水ぎわに植物がしげり自然が残されています。そこで、この場所を子どもたちが西郷川にすむ生き物たちとふれあい学べる場所として、水辺への階段や西郷川の自然を紹介する案内板などを設置します。

また、私たちは「郷育カレッジ」や「環境人材バンク登録制度」、「福間町生涯学習支援者リスト」などを活用して、地域で環境を学びます。



※「郷育カレッジ」「環境人材バンク登録制度」「福間町生涯学習支援者リスト」は、第4次福間町総合計画に示されている行動です。

⑧里山の駅さとやま（一ツ橋上流付近）

ここは、川沿いが田園地帯となっており、たんぼや里山がある日本の伝統的な川の姿を残しています。しかし、堤防や農業用水路のコンクリート化、農薬などにより、普通に見られたメダカやドジョウなどの姿は少なくなっています。

そこで、西郷川や川を育む里山の自然を次の世代に残していくために、子どもたちが川や里山の自然を体験できる場所として、メダカやホタルなどの放流を行う場所をつくります。また、里山をめぐる探検道を設定し、そのスタート地点とします。

私たちは「メダカ・カムバック運動」や「親子自然探検隊」などを行い、地域の環境を学び、育てていきます。



※「メダカ・カムバック運動」「親子自然探検隊」は、福間町環境基本計画に示されている行動です。

1. ふれあおう、ふるさとの川

(2) 自然あふれる川づくり(多自然型川づくり)

川の改修工事は、洪水に対して安全なまちづくりを行うためにはとても大切なことです。しかし、これまでは治水・利水を優先するあまり、護岸はコンクリートで固められ人工的な姿になり、魚や昆虫などの生き物がすみにくい環境になっていました。

そこで、今後の福間町における川の改修工事では、自然環境にやさしい方法を考え、魚や昆虫などの生き物がすみやすいような自然にやさしい川づくりを行っていきます。このような川づくりを「多自然型川づくり」とよんでいます。

「多自然型川づくり」では、工事が終わっても川づくりの完成ではありません。工事が終わった直後の川は、まだ生まれたばかりの赤ちゃんと同じです。川は地域の自然や人との関わりによって育てられ、そして、地域の自然や環境にあった表情をもつ川へと成長していきます。自然豊かな川を次の世代へと伝えていくために、福間町環境基本計画に示している「水辺の自然を取り戻す」ための行動を積極的に行っていきます。



ハート先生の豆知識

「多自然型川づくりってどうするの？」
多自然型川づくりでは、自然の川の姿をお手本にして、コンクリートだけではなく、土や木や石などの自然の材料を使って、魚や昆虫などのすみかとなるように川岸にすき間をつくったり、水辺に植物が育つことができるように工夫します。また、川の深さや流れの速さに変化をつけ、いろいろな生き物がすめるように工夫します。現在のすぐれた環境をできるだけ残しながら、川の改修工事を行うことも、多自然型川づくりの一つといえます。



多自然型川づくりのイメージ

1. ふれあおう、ふるさとの川

(3) なまずの学校の開校

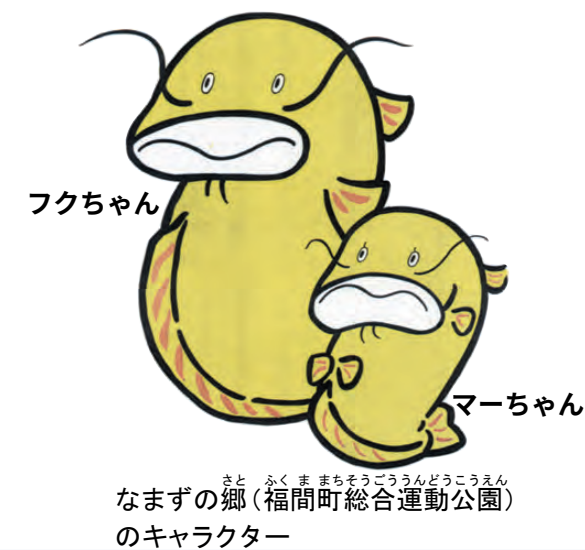
河原橋の下流付近は、水質が良く水辺には草がしげり、豊かな自然環境が残されています。近くには、なまずの郷（福間町総合運動公園）があり、周辺には小・中学校や老人ホームがあります。

このような恵まれた自然環境や周辺の施設をいかし、河原橋下流付近を「なまずの学校」として整備します。ここは、子どもたちの川遊びの場所としてだけでなく、地域の人子どもたちに川遊びの知識を伝え、自然のすばらしさや大切さを教える自然環境教育の場所となるように整備します。

「なまずの学校」では施設整備だけでなく、「郷育カレッジ」との連携や「環境人材バンク」、「福間町生涯学習支援者リスト」の活用などをおして、地域の環境を学ぶ機会を提供していきます。

私たちは、地域の環境に関心を持ち、環境を学ぶ場所である「なまずの学校」に積極的に参加していきます。

※「郷育カレッジ」「環境人材バンク」「福間町生涯学習支援者リスト」は、第4次福間町総合計画に示されている行動です。



コラム

「川は、自然の浄化作用をもっています」

川には本来、水が汚れても植物や小さな生物などの働きで、水をきれいにする能力があります。昔は、入ってくる汚れた水の量も少なかったため川そのものの力で水をきれいにすることができました。しかし、近代化と生活のしかたの変化などで川に入ってくる水の汚れがひどくなり、同時に護岸はコンクリートで固められたため、川は自分で水をきれいにすることができなくなってしまいました。

そこで、土や木や石などの自然の材料を使った「多自然型川づくり」を行うことで、川が本来もっている自然の浄化作用を回復することができます。



なまずの学校の整備イメージ

1. ふれあおう、ふるさとの川

(4) 集いの公園の整備

さいごうがわ かみさいごうがわ
西郷川と上西郷川が合流する付近は、福間駅東土地区画整理事業において公園や調整池を配置する予定になっています。そこで、この付近を西郷川や上西郷川と一体になった集いの公園として位置づけ、多くの人に「いこい・くつろぎ」や「遊び・学び」といった川の楽しみを感じてもらおう場所とします。

また、子どもたちが川の自然とふれあえる自然環境学習の場所となるように、水辺への階段や西郷川の自然や歴史を紹介する案内板などの整備も行います。



ハート先生の豆知識

「植物はどんな水質浄化作用をもっているの?」

川の流れているところで育つ水草は、川底に根をはって水の中で葉や茎が生長する植物と、水の上まで葉や茎が生長する植物とに分けることができます。こうした水草がしげると、水の流れの速いところと遅いところができるため、生き物のすみかや隠れ家になったりして、水中の多くの生き物にとってはゆりかごのような役割をします。

さらに、川の水をきれいにする能力もあります。水の中のにごりの成分を除去したり、水草自身や水草の表面にすんでいる藻類や微生物が窒素やりんを吸収することができるのです。

水質浄化能力のすぐれた植物としては、アシやクレソンなどがあり、これらは現在の西郷川でよく見ることができます。また、近年はシュロガヤツリも注目されています。

「窒素やりんが増えると川はどうなるの?」

窒素とりんは、植物が生長するためには必要なものです。よって、水中にはある程度の窒素とりんが含まれていることが必要ですが、増えすぎてしまうと水中の植物プランクトンが大量に発生してしまうため、水質が悪くなって水の汚れ具合を表す指標であるBODが大きくなります。

そこで、川に水草をしげらせて、水中の窒素やりんを吸収してもらうことで水質が浄化されることになります。

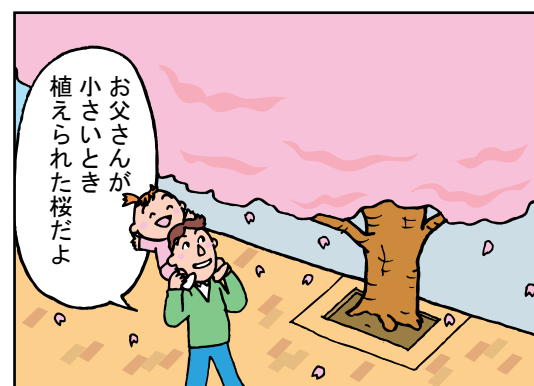
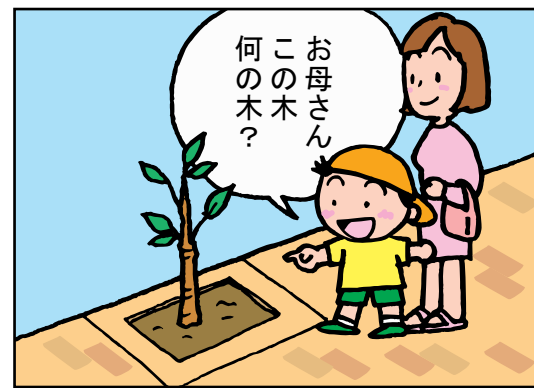


ハート先生の豆知識



つど
集いの公園
の整備イメージ

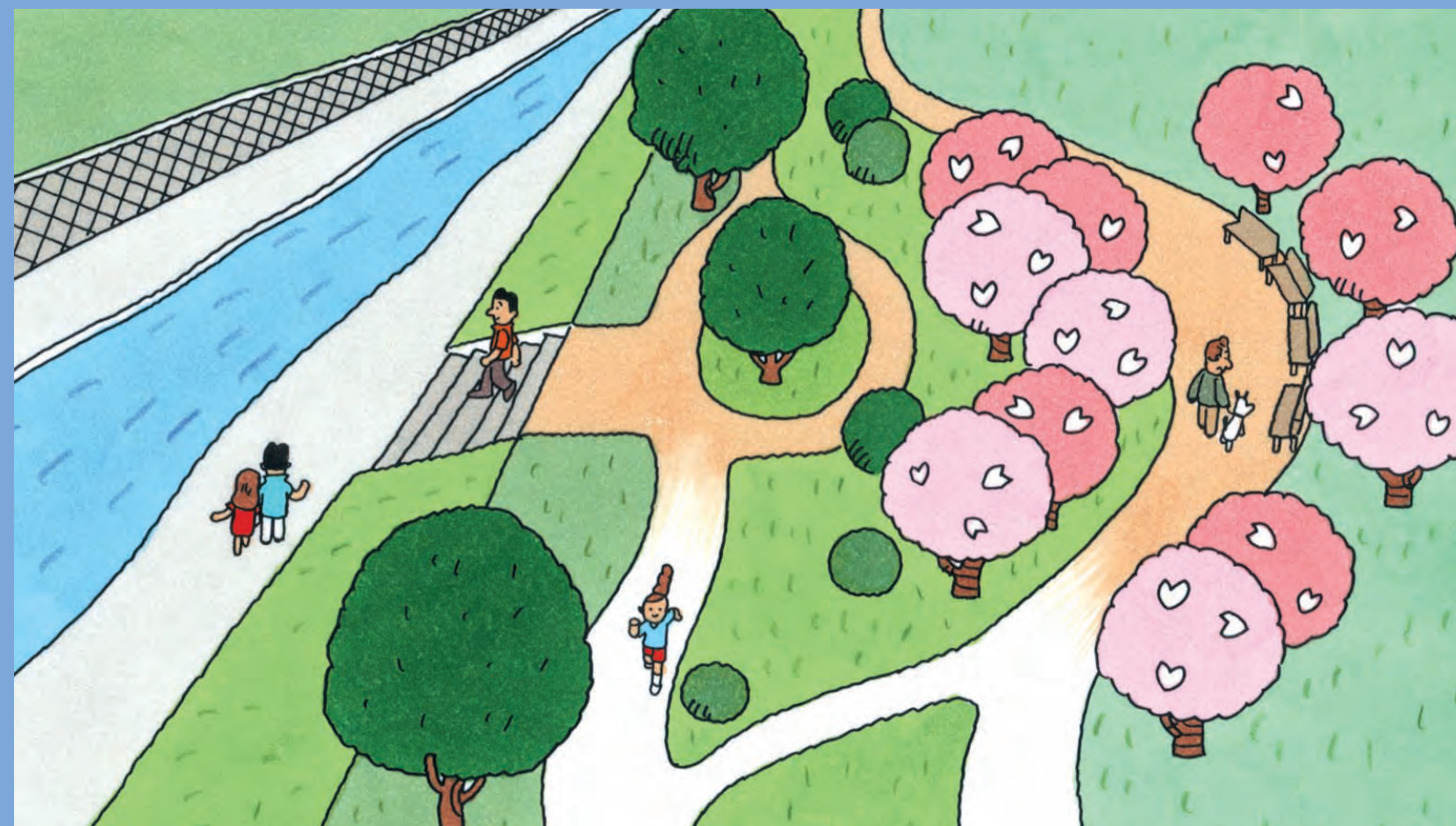
1. ふれあおう、ふるさとの川
(5) お花見の土手づくり



おおうちがわ いずみばし
大内川が合流する泉橋
の上流付近は、水深が浅く小
さな子どもたちでも安心して川で
遊ぶことができる場所です。
そこで、木を植え、散歩道の設置
を行い、大人も子どもも楽しめる場
所とし、お花見のできる土手を作
っています。

具体的には、福間町環境基
本計画の「つくろう！わたした
ちのまちの快適空間」のなかで示
している「住民トラスト運動」や
ワークショップの手法を用いて
施設の計画や植栽の種類など
を決定していきます。

私たちは、「花いっぱい運動」
や「公共エリア環境づくり事業」
などに参加・協力し、お花見の土手
がより魅力的な場所となるように
行動します。



お花見の土手づくり
のイメージ

※「花いっぱい運動」は平成11年度「まちづくり小学生会議」における発言です。
※「公共エリア環境づくり事業」は、福間町環境基本計画に示されている行動です。

1. ふれあおう、ふるさとの川

(6) アユがのぼれる川づくり

西郷川にあるせきは、田んぼの水を取るためのせきですが、田んぼが減少して利用されなくなったものもあります。できるだけ川を自然の状態にもどすため撤去や改造を行います。

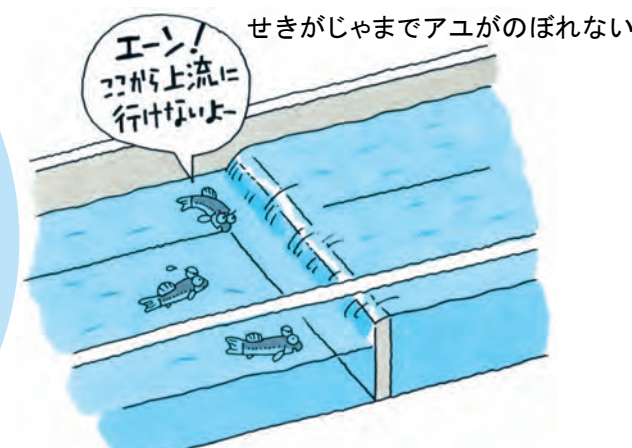
せきは水を取るために必要な施設ですが、一方で魚やカニなど生き物の移動の妨げになり、自然環境にとってはよくない面もあります。特に、アユやサケなどの海から川をのぼる魚にとっては、大きな障害となります。

コラム

「昔はアユもいた」

最近ではアユは見かけられなくなりました。地域の人のお話では、昔(昭和30年代頃まで)の西郷川にはアユがたくさんいたそうです。昭和60年8月に中学生が投網でアユを捕まえたニュースが広報ふくま(昭和60年10月号)でも紹介されました。また、昔は、シマドジョウやテナガエビもたくさんいました。

そこで、利用されなくなったせきは取りはらい、アユなどがのぼれるようにします。また、西郷川の最も下流にあるせきには、貴重な貝類であるイシマキガイがすんでいて、せきを取りはらうとすんでいるイシマキガイが死んでしまう恐れがあるため、アユなどが自由に移動できる程度に改造します。

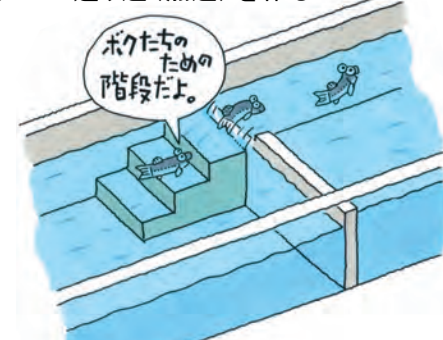


そこで...

せきを取り去ってしまう



アユの通り道(魚道)を作る



アユがのぼれる川づくりのイメージ

1. ふれあおう、ふるさとの川

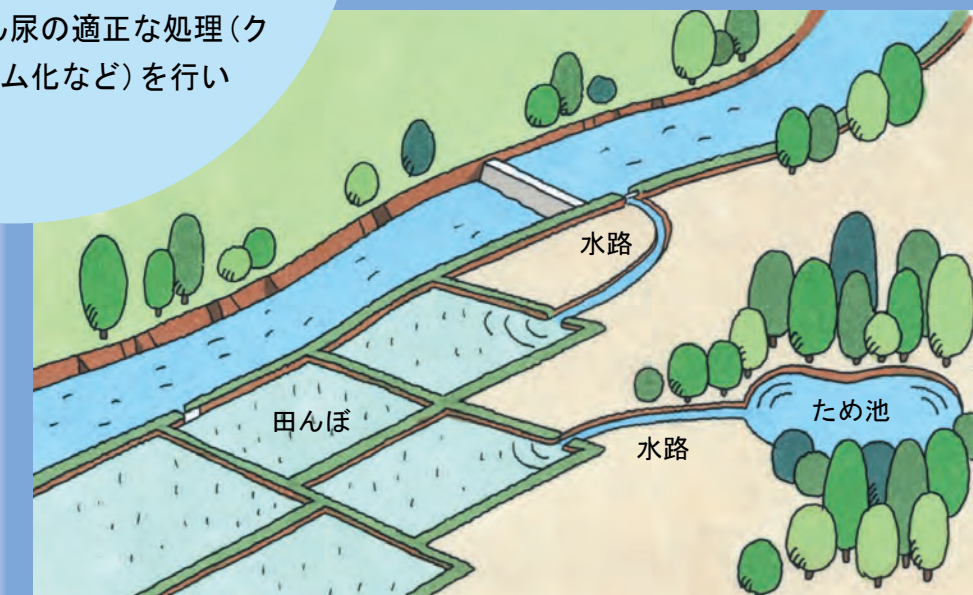
(7) 田んぼのビオトープづくり

西郷川やその支流には、昔はメダカがたくさんすんでいました。また、ゲンゴロウやタガメなどの水の中にすむ昆虫たちも多く見られました。

これらの小さな生き物たちは、田んぼを成長の場所とし、田んぼと小川、周囲のため池や里山などを移動していました。

治水目的のために多くの川は深く掘り込まれ、田んぼとの連続性は失われました。また、開発により里山は減少し、ため池から流れ出る水路や田んぼとため池や川を結ぶ水路もコンクリート化したため、昔の「里山—ため池—田んぼ—川」という生き物の移動ができなくなってしまいました。

そこで、自然豊かな里山や田んぼが残されている西郷川の上流部では、「里山—ため池—田んぼ—川」を生き物が自由に移動できるように工夫し、メダカの放流活動なども加えて、昔の西郷川の姿をよみがえらせる行動をします。また、福岡県環境基本計画に示しているように、私たちは、農薬や化学肥料の使用を減らし、家畜のふん尿の適正な処理(クローズドシステム化など)を行います。



田んぼのビオトープのイメージ

2. よみがえらせよう、ふるさとの川

(1) 具体的な水質目標の設定と実現

現在の西郷川の水質は、環境基準を達成できていません。環境基準値BOD（生物化学的酸素要求量）3mg/Lを達成するためには、公共下水道を整備する必要がありますが、整備には長い年月を必要とします。公共下水道の整備をすすめながら、市街地を流れる水路や川を直接浄化していきます。

これらの行動によって、どれだけ川がきれいになったのか、「泳げる川、西郷川」がどれだけ実現しているかを示すものとして、具体的な指標を定めることにしました。水質を示す項目には、たくさんの項目がありますが、その中でも代表的な項目として、BODを採用しました。このBODについて、短期の目標数値、中期の目標数値、長期の目標数値と段階的に目標数値を定め、その実現をめざしていきます。

一般的に水浴に適した水質とは、環境省通知によるとBOD2mg/L、SS25mg/L以下等が基準となっています。他にも、ふん便性大腸菌群数が不検出であること、油膜が認められないこと、透明度が全透（水深1m以上）であることなどが理想的な条件とされています。

●段階的な水質目標の設定●

泳げる川、西郷川への段階的な水質目標

短期目標：西郷川の水質環境基準の達成
目標水質：BOD3mg/L
期間：10年間

- 水路の浄化対策
- 公共下水道の計画策定と整備開始
- グリーン活動による水環境問題への理解と取り組み

中期目標：西郷川が泳げる川としての目標水質の達成
目標水質：BOD2mg/L
期間：10年間

- 公共下水道整備の推進
- 河川の直接浄化対策の実施
- グリーン活動による水環境問題への理解と取り組みの継続

長期目標：西郷川の良好な水質の保全、良好な水環境の形成
目標水質：BOD2mg/L以下の維持
期間：10年間

- 公共下水道整備の完了
- グリーン活動による水環境問題への理解と取り組みの継続

2. よみがえらせよう、ふるさとの川

(2) 公共下水道の整備

福岡市は、公共下水道などが整備されていない場所が多く残されています。公共下水道は、私たちが暮らすためになくてはならないものであり、水循環を良好に保つためにも大切な施設です。早く整備しなければなりません。

市街地のすべてに公共下水道が整備されたとして考えた場合、西郷川の最も下流にある浜田橋地点の水質は、BODで約2mg/L以下になると予測されます。

水質だけで判断すると、きれいな溪流と同じ程度となり、サケ、マス、アユ、イワナなどのきれいな水にしかいない魚でも十分にすむことができます。

2. よみがえらせよう、ふるさとの川

(3) 川の直接浄化

「泳げる川、西郷川」をめざして、西郷川を直接浄化する必要があります。きれいにする方法としては、れきなどのろ材を用いた「接触酸化方式」や、環境にやさしく景観的にもすぐれている植物を利用した「植生浄化方式」・「多自然型川づくり」の採用を考えています。



ハート先生の豆知識

「浄化方法」

れきなどのろ材などを用いた「接触酸化方式」や、植物を利用した「植生浄化方式」・「多自然型川づくり」、あるいはきれいな水を水路に導き、汚れた水をすすめる「希釈方式」などがあります。

2. よみがえらせよう、ふるさとの川

(4) 水辺の再生

家庭などから出る排水などが水路へ流されるため、それが原因で西郷川の水質はよくありません。

市街地を流れる福間都市下水路や寺溝排水路の水の汚れは、BOD（生物化学的酸素要求量）の平均値が20mg/Lと大変大きく、西郷川の水質に悪い影響を与えています。

また、市街地の雨水の排水を優先して、コンクリートで固められてしまったため、うるおいや親しみがもてる水辺にはなっていません。

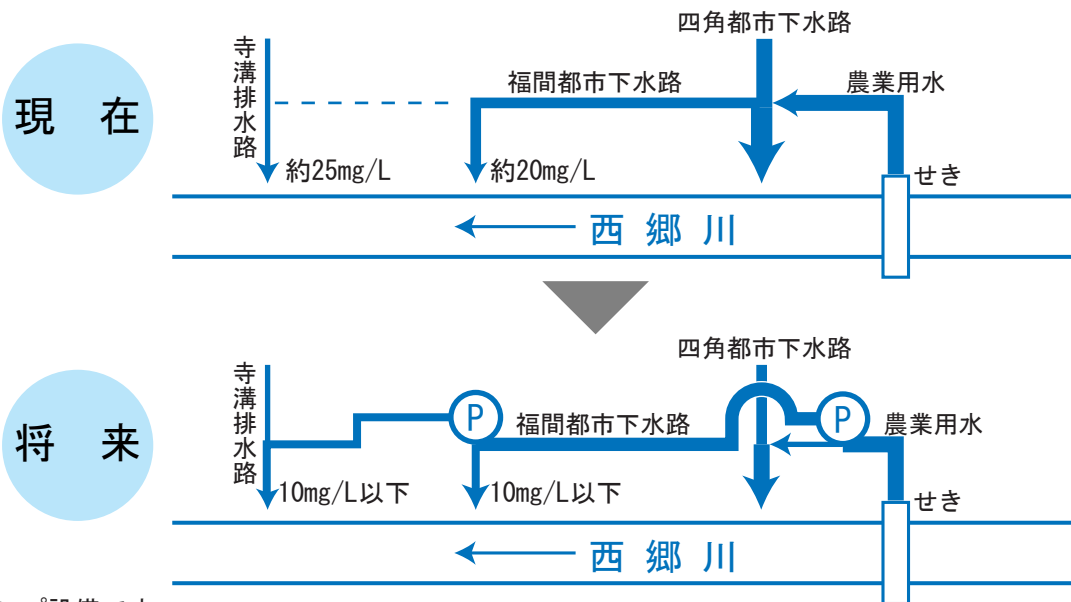
そこで、公共下水道の整備が終わるのをじっと待つのではなく、今から少しずつでも、この水路の再生に向けて行動していかなければなりません。

水をきれいにするには、いろいろな方法があります。この計画では、農業用水として使われた後の水（BOD2mg/L程度）を福間都市下水路や寺溝排水路へ導き、汚れた水をうすめていきます。目標とする水質は、公共下水道の整備が終わるまでの間はBOD10mg/L以下をめざします。

また、コンクリートで固められた川底の一部をはぎ取ったり、石を置いたり、水路沿いに木を植えたりして、生き物がすみやすいような水辺にかえるなど、自然の浄化作用も促していきます。

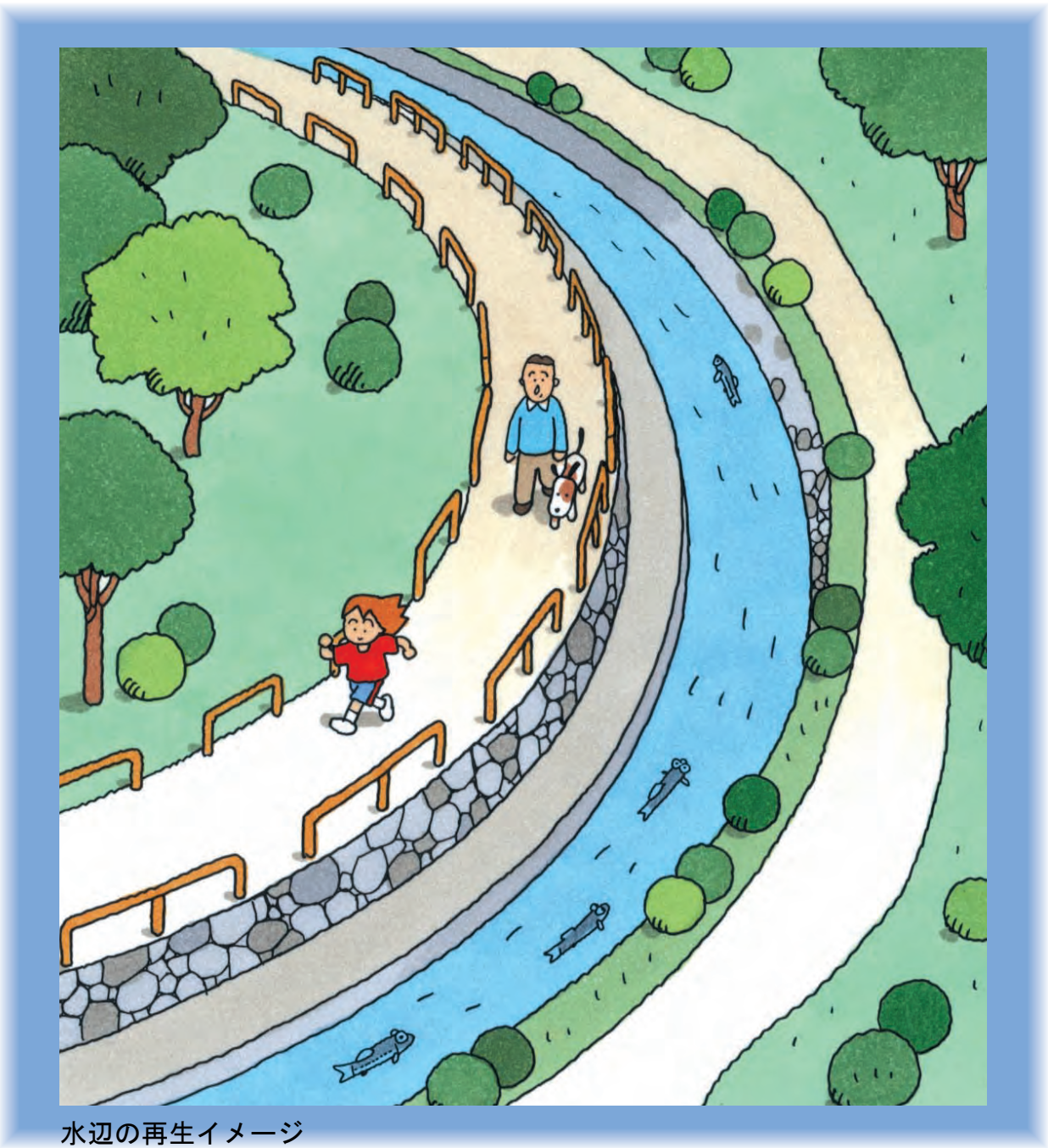
このような環境にやさしいグリーンの技術を使いながら、少しずつ水辺を再生していきます。

●希釈方式の場合の浄化用水の導水経路●



現在、市街地では水路にふたがかけられています。昔は、せせらぎとして私たちに安らぎやうるおいを与えてくれました。

水路の水質浄化をすすめたり公共下水道が整備されると、水はきれいになります。できるだけ水路のふたをとって、水ぎわに植物を植えるなど、昔のような水辺に再生させていきます。



2. よみがえらせよう、ふるさとの川

(5) 水循環による水量の回復

海や湖など水面から蒸発した蒸気は、大空に昇り雨となって空から降ってきます。雨は、森や畑など大地に恵みを与え、土にしみこみ地下水となり、やがて川となって海に注いでいます。水は自然の中で形を変え、めぐりめぐって流れているのです。このようなことを「自然の水循環」といいます。

また、人はこの自然の水循環の中に自らの生活や安全のために、用水として水を貯え、あふれる川を治め、かんがいするための水路をつくり、飲料水などとして利用し、その使った水を処理するという「人工の水循環」をつくり、長い間自然と共存してきました。

しかし、近年森が荒れ、水路がコンクリートで固められたり、道路などが舗装されるなど、雨水が土の中にしみこみにくなり、地下水や川の水が少なくなっています。

雨が降らない日が続いても、降った雨が地下水となってゆっくりと川へ湧き出てくるような、自然の水循環を回復するために、根気よく行動していきます。

「れきなどのろ材を用いた接触酸化方式ってなあに？」

自然の川に見られる自然浄化の仕組みを人工的に作り出した浄化方法です。川底に何層ものれき（小石）を積み、これに水を流すことで、れきの表面にすみ着いた微生物が汚れを分解して水を浄化します。

ハート先生の豆知識



ハート先生の豆知識

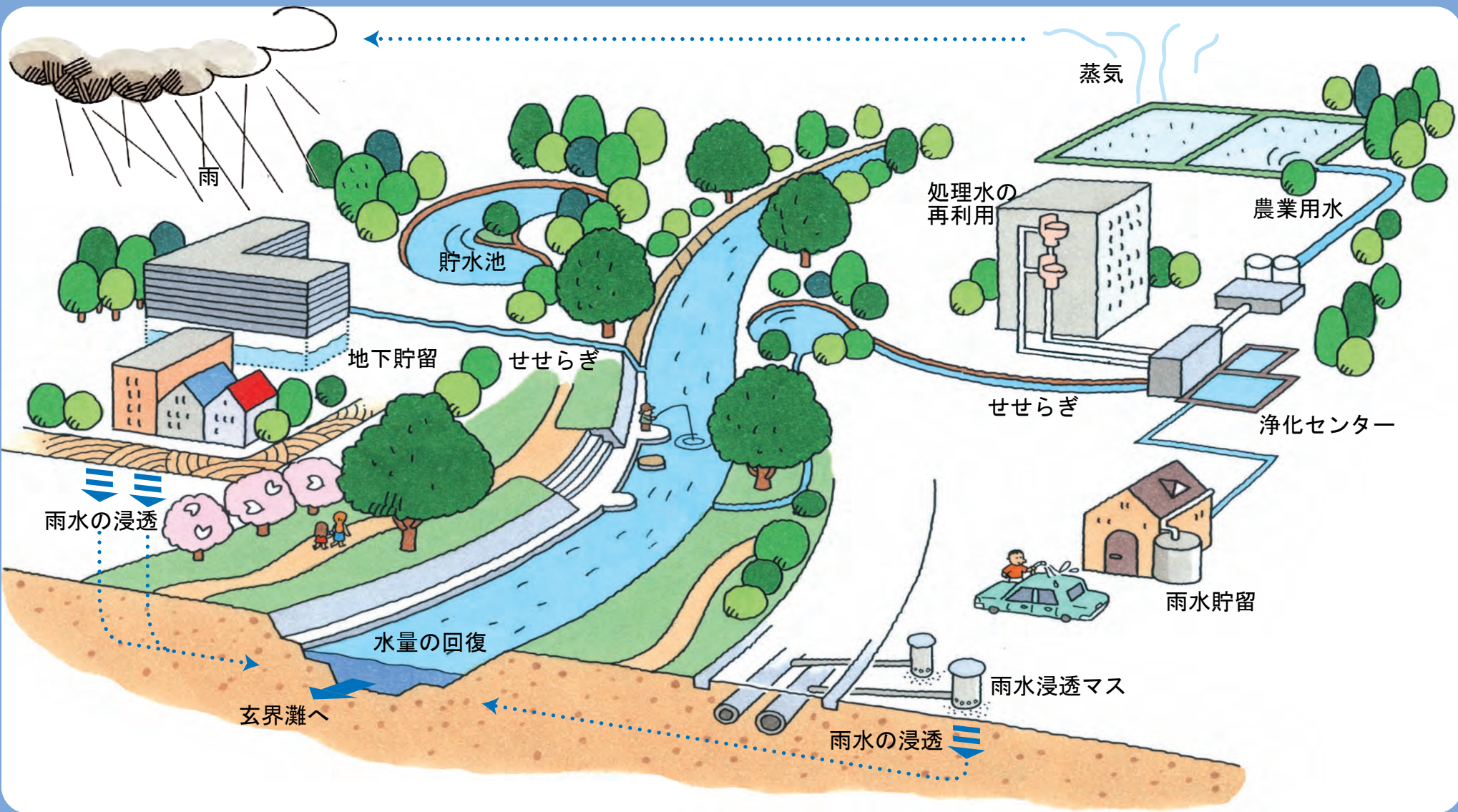


「こんなに薄めないと魚は生きることができません」

川の水の汚れ具合の表し方として有名なのがBODです。BODが大きいほど汚れがひどいことを表しています。魚がすめる水のBODはおおよそ5mg/L以下です。

たとえば、みそ汁はBODで表すと35,000mg/Lもあります。魚がすめる水質にまで薄めるには、なんと7,500倍ものきれいな水が必要です。

日常的な飲料などのBODの値	魚がすめる水質にするために必要な水の量は？	日常的な飲料などのBODの値	魚がすめる水質にするために必要な水の量は？
みそ汁お椀1杯(200mL) BOD35,000mg/L	(200Lの浴槽で) 7杯	米のとぎ汁1回分(2L) BOD3,000mg/L	(200Lの浴槽で) 6杯
牛乳コップ1杯(150mL) BOD10,000mg/L	(200Lの浴槽で) 1.5杯	ビールコップ1杯(150mL) BOD110,000mg/L	(200Lの浴槽で) 17杯
しょうゆ大さじ1杯(15mL) BOD150,000mg/L	(200Lの浴槽で) 2.3杯	日本酒おちょこ1杯(20mL) BOD150,000mg/L	(200Lの浴槽で) 3杯
使用済み天ぷら油(500mL) BOD1,000,000mg/L	(200Lの浴槽で) 500杯	シャンプー1回分(10mL) BOD200,000mg/L	(200Lの浴槽で) 2杯



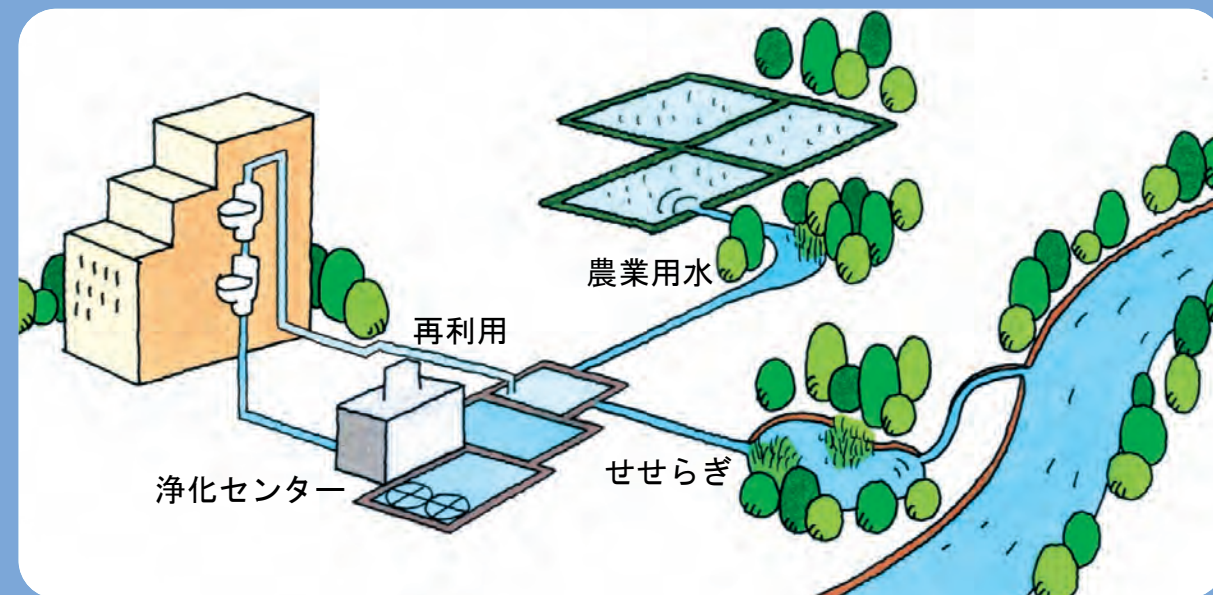
水循環による水量回復のイメージ

2. よみがえらせよう、ふるさとの川

○浄化センターできれいにされた水の利用

公共下水道の浄化センターが整備されたときは、そこできれいにされた水を川に戻し、川の水量を回復していきます。

また、きれいにされた水を「水環境の創出と保全のための行動」や「環境資源としての有効利用」として、公園内のせせらぎや滝、噴水、また散水などへの利用をすすめ、新しい水辺をつくっていきます。



浄化センターできれいにされた水の利用例

コラム

「下水処理水の有効利用」

浄化センターできれいにされた水は、価値ある水資源のひとつです。そこから排水される水は、高度処理することで十分に有効利用することができます。

2. よみがえらせよう、ふるさとの川

(6) 雨水利用の促進

福岡市の水道の使用量は、今後も増加すると予測されています。限りある水資源を有効に使うことを考えていかなければなりません。

近年、市街地に降った雨水は大切な水資源として活用され始めています。福岡市でも雨水も大切な水資源と位置づけ、雨水をしみこませる施設や貯える施設を整備していきます。そうすることにより、地下水が貯えられ、長い時間をかけて川へ湧き出て、晴れた日の川の水量を回復することができます。また、貯めた水を利用することで、西郷川からの取水量を減らすことができます。

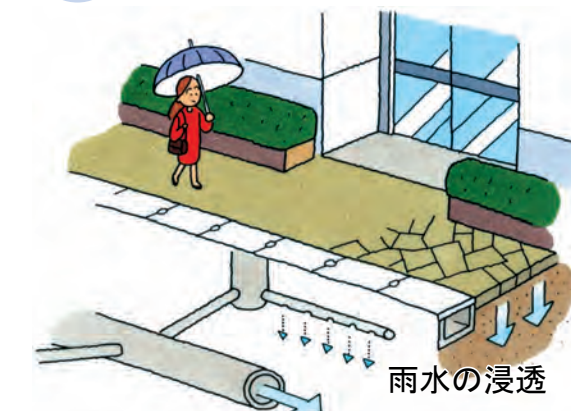


市街地の緑化のイメージ

一般住宅



道路



3. もっと知ろう、ふるさとの川

(1) 「又ぜーの森」づくり

西郷川^{さいごうがわ}周辺の水循環^{みずじゆんかん}の回復や水道水源を守るためには、上流部の森を守る必要があります。森がもつはたらき、森が私たちに与えてくれている豊かな恵み、そのことを私たちはもう一度改めて見直さなければなりません。

森は汚れた大気を吸収し、きれいな酸素を放出して、大気の循環に大きな役割を果たしています。そして、森は水を貯え地下水^{みずじゆんかん}の水源となり、地下水はやがて川となり、川は海に注ぐという「自然の水循環」の中で、大きな役割を果たしています。森は私たちが生きていく上で、欠くことができないものなのです。

しかし、森をとりまく環境は厳しくなっています。川のために、森に対しても行動を始めなければなりません。森づくりで大切なことは、山に暮らす人や林業を営む人たちのがんばりだけではなく、その恵みを受けている私たちも、行動することです。私たちは自らの手で、苗木を植え、育て、時間をかけて森をつくることで、川を育てていくことができます。この森づくりが、今私たちが始めようとする森づくりです。この森づくりは、自然の大切さを私たちに教えてくれます。この行動を支えていくのが「又ぜーの森」づくりであり、「西郷川基金^{さいごうがわ きん}」です。

私たちはお金と時間と汗をみんなで出して、西郷川^{さいごうがわ}をよみがえらせるため森を育てるのです。西郷川リバー基本計画では、「又ぜーの森」づくりという名のもと、川を育てる森づくりにも取り組みます。



コラム

「西郷川基金^{さいごうがわ きん}」

この基金は、苗木を買うだけでなく、グリーン^{さいごうがわ}の活動として稚魚の放流やクリーン作戦など、西郷川に関わるいろいろな活動の費用として用います。



西郷川基金のイメージ

3. もっと知ろう、ふるさとの川

(2) ボランティア活動の充実

私たちは「泳げる川、西郷川^{さいごうがわ}」を実現するために、川を育てるボランティア活動を活発に行うなど、自ら積極的に参加しなければなりません。

グリーンの活動などを行うボランティア団体を組織し、参加するとともにその活動を支援していきます。



ボランティア団体のイメージ

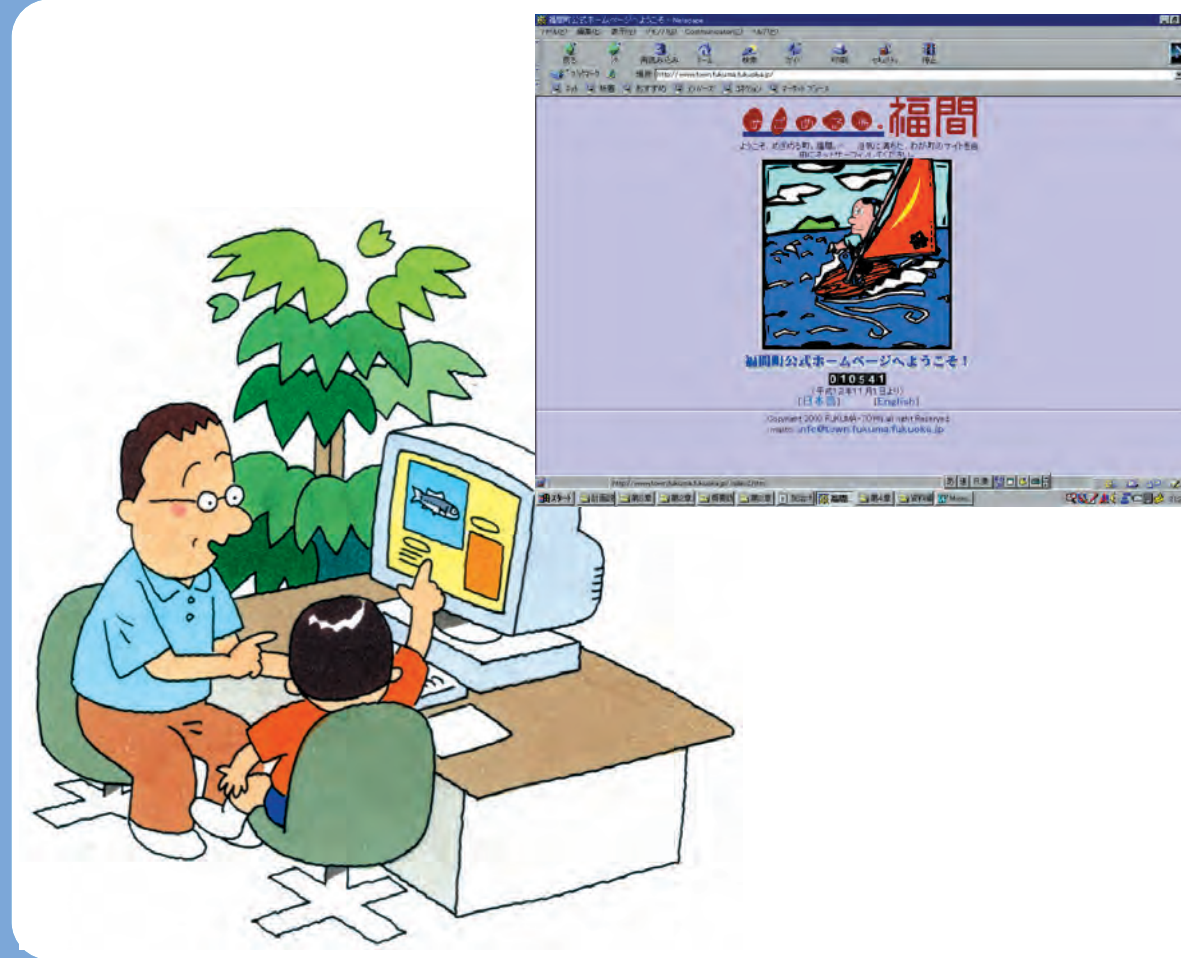
3. もっと知ろう、ふるさとの川

(3) 西郷川の情報の共有と学習の推進

現在、福岡町はホームページ「<http://www.town.fukuma.fukuoka.jp/>」を開設し、町の案内、レジャー・観光、文化・芸術など多くの情報を発信しています。

このホームページのメニューのひとつとして、新たに「西郷川リバーズ」を設け、西郷川のなりたち、西郷川の生き物、西郷川とくらし、西郷川リバーズ基本計画の紹介、グリーン活動に関わる情報を発信していきます。

ホームページは、福岡町の子どもたちの環境学習にも利用できます。さらに、日本中、世界中の人に向けた福岡町の窓ともなります。



ホームページ作成のイメージ

3. もっと知ろう、ふるさとの川

(4) 学校や地域の活動



環境学習のイメージ

西郷川リバーズ基本計画では、西郷川を大切な環境学習の場所として位置づけています。西郷川の水環境をよくすることは、同時に子どもたちが学校教育や地域をとおして西郷川とふれあうことにより、すこやかに育まれることにつながると考えています。

学校教育でも「総合的な学習の時間」が平成14年度から本格的に実施されます。そのなかで、環境学習をすすめていきます。

川は子どもたちにとって、最高の自然とのふれあいの場所です。「なまずの学校」や「集いの公園」などの西郷川リバーズ基本計画で整備を計画している場所を、環境学習の場所として利用をすすめていきます。川での自然体験は、きっと子どもたちの自然体験としてすばらしい学習の時間となります。

このような環境学習をとおして「子どもたちが川を育て、川が子どもたちを育てる」といった、人と自然との共生をめざしていきます。

3. もっと知ろう、ふるさとの川

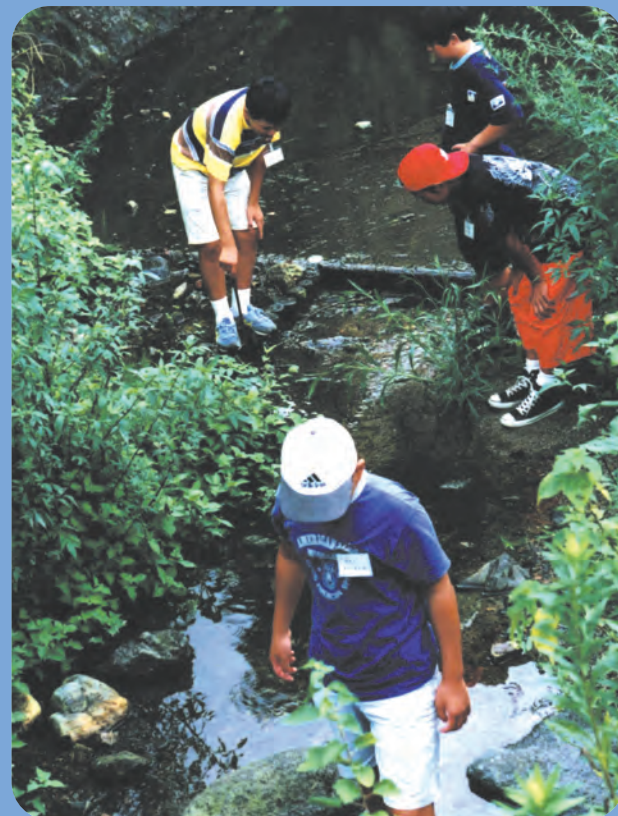
(5) 西郷川めぐりと里山探検

西郷川は福間町の中心部を流れ、山から海まで福間町のすみずみを知っている川です。西郷川の周りには豊かな自然が広がっています。その自然を知ること、西郷川をより身近に感じ、西郷川の魅力を再発見することができます。

この計画で整備する「川の駅」と「西郷川プロムナード」を利用して「西郷川めぐり」や「里山探検」事業をすすめます。

西郷川プロムナードには、私たちの手によって植えられた「川の一里塚」があります。その木は距離を示す目印となるので、自分がどれだけ歩いたかは一目で分かります。自分にあった距離やコースを設定し、健康づくりもすすめていきます。また、里山探検事業は、川の駅を起点にモデルコースを設定するなどの方法ですすすめていきます。

西郷川めぐりや里山探検事業では、「環境人材バンク」や「福間町生涯学習支援者リスト」などを活用し「川の先生」や「昔遊びの達人」による環境学習をすすめていきます。



西郷川めぐりのイメージ



ほたるの里(本木川自然公園)のキャラクター

3. もっと知ろう、ふるさとの川

(6) 「西郷川の日」の設定(3月15日)

西郷川は「ふるさとの川」として古くから私たちの生活に関わってきました。しかし、近代化と生活のしかたの変化などが原因で、川は清らかな流れを失ってしまい、人は西郷川から遠のいてしまいました。

福間町環境基本計画に示している環境保全への取り組みを基本として、西郷川をよみがえらせていきます。

少しでも多くの人に西郷川を意識してもらうため「西郷川の日」を定め、啓発活動やグリーン活動を行う日とします。



西郷川の日イメージ

3. もっと知ろう、ふるさとの川

(7) 稚魚の放流

さいごうがわ
西郷川の自然を守り育てていくためには、次の世代を担う子どもたちへの自然環境教育が大切です。

グリーンズの活動として、稚魚の放流活動を行っています。さいごうがわ
西郷川の自然を私たちの手で守り育てるという意識を育んでいきます。

放流する魚は、数が減っている種類や、今はすんでいないが昔すんでいた可能性がある種類などから選びます。



稚魚の放流

3. もっと知ろう、ふるさとの川

(8) 啓発活動の推進

川をきれいにするためには、施設を整備することもひとつの方法ですが、もう一つの方法として、一人ひとりが川を汚さないようにするという方法があります。どうすれば川を汚さないのか、どうすれば川がきれいになるのかということについて、私たちは知る必要があります。そのための啓発活動を積極的にすすめていきます。



第5章 さい ごう がわ 西郷川リバーズ基本計画 をすすめていくために

1. 実施体制

「^{さいごうがわ}西郷川リバーズ基本計画」は、私たち（住民・事業者・行政）がしっかりと手を取りあって、確実にすすめていかなければなりません。

また、西郷川さいごうがわの直接の管理者である福岡県ふくおかけんと、十分連携をとりながらすすめていくことが大切です。

●実施の体制●



2. 実施スケジュール

西郷川リバー基本計画では、さまざまな行動をすすめていくようにしています。しかし、一度にすべての行動をすすめていくことは難しく、その効果や経済性などを考えて、より有効なものやできることから始めていきます。

また、実施した行動の効果を確認するとともに、西郷川^{さいごうがわ}を取りまく環境の変化に応じて、計画の見直しを行っていきます。

次に、主な行動や活動の実施スケジュール(案)を示します。

●施策の実施スケジュール(案)●

	施策の内容	短期目標 10年間	中期目標 10年間	長期目標 10年間	
ふれあおう、 ふるさとの川。	●川の駅と西郷川プロムナードの整備 さいごうがわ				
	●自然あふれる川づくり				□ □ □ □ □ □
	●なまずの学校の開校				
	●集いの公園の整備 つど				
	●お花見の土手づくり				
	●アユがのぼれる川づくり				
	●田んぼのビオトープづくり				
よみがえらせよう、 ふるさとの川。	●具体的な水質目標の設定と実現				
	●公共下水道の整備 こうきょうが ずいどう				
	●川の直接浄化 ちよくせつじょうか				
	●水辺の再生 みづの へん				
	●水循環による水量の回復 みづの じゆんかん				□ □ □ □ □ □
	●雨水利用の促進 う すい				□ □ □ □ □ □
もっと知ろう、 ふるさとの川。	●「又ぜーの森」づくり また				□ □ □ □ □ □
	●ボランティア活動の充実				□ □ □ □ □ □
	●西郷川の情報の共有と学習の推進 さいごうがわ				□ □ □ □ □ □
	●学校や地域の活動				□ □ □ □ □ □
	●西郷川めぐりと里山探検 さいごうがわ さとやまたんけん				□ □ □ □ □ □
	●「西郷川の日」の設立 さいごうがわ				□ □ □ □ □ □
	●稚魚の放流				□ □ □ □ □ □
	●啓発活動の推進				□ □ □ □ □ □

用語集

雨水浸透マス	うすいしんとうます	雨どいで集めた雨水を貯めて、地中に徐々に浸透させるため、底面や側面に穴が空いた樹。
粕屋・宗像地区河川環境管理基本計画	粕屋・宗像地区の津屋崎町・福岡町・古賀市・新宮町を流れる二級河川（手光今川、西郷川、中川、大根川、湊川の5水系）を対象に、河川の望ましいあり方を追求するとともに、治水・利水機能との調整を図り、良好な河川環境の保全と創造を図るための指針として、適正な管理に資するために福岡県が策定した計画。	
河畔林	かはんりん	川のほとりにしげっている林。
環境基準	かんきょうきじゆん	環境基本法第16条に基づき「人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」として政府が定める環境保全行政上の目標で、環境行政の根幹となる重要な基準である。大気汚染、水質汚濁、土壌の汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭の7種類について環境基準が設定されている。また、これらの基準は、社会情勢等を勘案して適宜見直すことが規定されている。
環境人材バンク	かんきょうじんざいばんく	福岡町環境基本計画で定められた、環境分野における支援者として登録していただいた方などのリスト。このリストを参考にして、学校や地域などで環境保全などについての学習会などを企画実施していただくことを目的としている。
希釈	きしゃく	水をうすめること。
クローズドシステム		排水を河川などへ放流せず、高度処理などをして循環利用するシステム。
啓発活動	けいはつかつどう	人々の気がつかないような物事について教えわからせるための活動のこと。
国定公園	こくていこうえん	国定公園は、優れた自然の風景、傑出した自然景観、野生のままの動植物などを含む広大な自然地域を対象に、これらの自然を保護し、人々の野外レクリエーション利用や教育の場として、「自然公園法」に基づき指定される地域で、国立公園に準じた価値を持つもの。
郷育カレッジ	ごういくかれっじ	誰でもが、いつでも、どこでも、楽しく学びあうことができ、その学習成果が正しく評価、活用されるシステム。「郷育」とは、江戸時代末期の吉田松陰の松下村塾での思想で、人と人が向きあって育てあう地域の人材育成を意味する。
公共エリア環境づくり事業	こうきょうえりあかんきょうづくりじぎょう	道路・公園・河川などの公共施設の美化や保全などのため、住民・事業者などのみなさんと組織するボランティア団体が里親になり、町と一体となって環境美化に取り組む福岡町の事業。世界的には「アダプトプログラム」という。
公共下水道	こうきょうげすいどう	主に市街地における下水を排除し又は処理するために、地方公共団体が管理する下水道。
洪水	こうずい	台風や前線によって流域に大雨が降った場合、その水は河道に集まり、川を流れる水の量が急激に増大する現象を洪水とよぶ。
高度処理	こうどしより	要求される水質が、活性汚泥法に代表される通常の二次処理水の水質では満足できないときに、処理水質をさらに向上させるために行われる処理のこと。①水質環境基準の達成、②湖沼等の富栄養化の防止、③下水処理水の再利用の場合に実施される。
護岸	ごがん	川を流れる水の作用（浸食作用など）から河岸や堤防を守るために、それらの表法面（おもてのりめん：川を流れる水があたる堤防などの斜面）に設けられる施設で、コンクリートなどで覆うような構造のもの。
コミュニティプラント		し尿や生活雑排水を地域ぐるみで集散的に処理するための下水道に類似した施設で、地域し尿処理施設または大型合併浄化槽ともいう。公共下水道が未整備の地域に宅地を開発したり、住宅団地を建設する時に設置される。

西郷川プロムナード	さいごうがわぶろむなード	第4次福岡町総合計画策定時の「まちづくり子ども会議（平成10年度）」で提案された「泳げる川、西郷川」の実現のための「西郷川リバース計画」の一つの事業。
里山	さとやま	集落の近くにあり、かつては薪炭用木材や山菜などを採取していた、人と関わりのふかい森林。
自然環境調査	しぜんかんきょうちようさ	平成11年度に、町内や近隣の有識者などによって行った自然環境に関する調査。地形・地質、植物、動物（ほ乳類、鳥類、は虫類・両生類、昆虫類、陸産・淡水産貝類、淡水魚類）の各分野の観点から、福岡町内の保全すべき地域とその価値について調査した。
住民トラスト運動	じゅうみんとらすとうんどう	地域住民や事業者などに広く基金を募り、身近なあるいは貴重な自然や歴史的遺産などを買い取ることによって保全していく活動。1985年イギリスで始まり、日本においては、北海道の知床100平方メートル運動などが知られている。
取水口	しゅすいぐち	上水道や農業用水などで、川などから水を取り入れるための施設。
浄化	じょうか	汚れを取り除いて、きれいにすること。
浄化センター	じょうかせんたー	家庭などから排出された汚水を浄化するための施設。下水処理場。
浄水場	じょうすいじょう	川などから取水した水を、飲用するためにきれいにする上水道の施設。
植生浄化方式	しょくせいじょうかほうしき	植物は地面から窒素やりんを養分として吸収するが、その吸収作用を利用して水をきれいにする方法。
支流	しりゅう	本流に注ぐ川の流れ。また、本流から分かれ出た川。
水浴	すいよく	水を浴びること。
水浴場水質基準	すいよくじょうすいしつきじゆん	水浴に供される水域の望ましい水質についての基準。ふん便性大腸菌群数、油膜の有無、COD、透視度について基準が示されている。
せき		農業用水・工業用水・水道用水などの水を川から取水したり、河川を横断して水位を制御する構造物。
接触酸化方式	せつしよくさんかほうしき	れき（小石）などを川の底などに敷き詰め、その表面にすまわせる微生物に水の汚れを除去させる浄化方式。
藻類	そうるい	水中に生活し、独立栄養を営む葉状植物の総称。分類上の明確な群ではない。緑藻類・褐藻類・紅藻類・藍藻類・ケイ藻類など。
第4次福岡町総合計画	だいよじふくままちそうごうけいかく	福岡町が21世紀にふさわしい活気あふれる元気いっぱい町として、また住み良い豊かな誇れる町として、さらに進展、充実していくための総合的なまちづくりの計画。平成21年度（2009年）を目標年度として、まちづくりの基本方針や行政が行う施策の方向性を示している。
多自然型工法	たしぜんがたこうほう	河川の治水・利水機能の確保に加えて、自然性豊かな環境に配慮し、生態系の保全・創造までも含んだ川づくりの工法。①自然が持つ多様性の尊重、②良好な水辺と水循環の保全・創出、③生態系が独立しない水と緑のネットワーク確保などが重要となる。
地下貯留	ちかちよりゅう	地下に雨水などを貯めること。
治水	ちすい	河川の氾濫（はんらん）を防いだり、水運・灌漑（かんがい）の便をよくしたりすること。
調整池	ちょうせいち	洪水を一時的に貯めて、洪水の最大流量（ピーク流量）を減少させるために設けた施設。
堤防	ていぼう	河川では、計画高水位以下の水位の流水を安全に流下させることを目的として、山に接する場合などを除き、左右岸に築造される。
都市下水路	としげすいろ	主に市街地における浸水の防除を目的とし、原則として内径がφ0.5m以上の排水管渠で集水面積が10ha以上のもの。

用語集

75%値	75ぱーせんとし	公共用水域で測定された水質の日間平均値が、定められている水質環境基準値に適合しているか照合するための水質値。N個の日間平均値を、値の小さいものから順にならべた時に、(0.75×N)番目にくる数値のこと。ただし、(0.75×N)が整数でない場合は、その数を超える最小の整数番目の数値とする。
花いっぱい運動	はないっぱいうんどう	第4次福岡町総合計画策定時の「まちづくり小学生会議(平成11年度)」で提案された意見で、全町的に環境美化運動を推進していくというもの。
BOD	びーおーでいー	生物化学的酸素要求量(Biochemical Oxygen Demand)の略。水中の有機物が、好気性微生物の作用を受けて除々に酸化、分解され、安定化していく過程で消費される酸素量のこと。この値が大きいほど、水質汚濁が著しいことを示す。
B類型	びーるいけい	水質環境基準でさだめられている基準値のこと。河川(湖沼を除く)ではBODの類型は、AA類型(1mg/L以下)、A類型(2mg/L以下)、B類型(3mg/L以下)、C類型(5mg/L以下)、D類型(8mg/L以下)、E類型(10mg/L以下)と定められている。
ビオトープ		生物がすんでいる場所のことで「生息場所、すみ場所」ともいわれる。単なる位置的な場所ではなく、ある種の生物が生存できるような環境を構成する水・大気・土などの非生物的諸要因と動植物や微生物の生物的諸要因の状態を有する特定の場所を示す。近年、河川・道路・公園・緑地などの整備で、ビオトープの維持・回復・創出やネットワークづくりが配慮され始めている。
微生物	びせいぶつ	肉眼では観察できない、きわめて小さな生物。通常、細菌・酵母・原生動物などをさすが、ウイルスを含めたり、場合によって多細胞の藻類まで含めたりすることもある。
土地区画整理事業	とちくかくせいりじぎょう	区画整理は日本で代表的な市街地整備手法の一つで、地域の都市核の形成、良質な住宅・宅地の供給並びに公共公益施設の整備促進に寄与し、良好な住環境を備えた健全な市街地の形成を図ることを目的に進められる事業。
福岡町環境基本計画	ふくまちかんきょうきほんけいかく	第4次福岡町総合計画の目標「めざめる町。福岡。～ベッドタウンからリビングタウンへ～」を環境面から実現するため、また、地球環境を守るためにまずは身近な環境への取り組みからみんなで始めるため、みんなの行動をサポートしていくことを目的に、平成13年3月に策定された。
福岡町生涯学習支援者リスト	ふくまちしょうがいがくしゅうしえんしやりすと	福岡町環境基本計画で定められた、生涯学習推進事業の一つで、芸術・文化・スポーツなど各分野の支援者として登録していただいた方などのリスト。
プランクトン		水生生物の生活型による分類の一つ。水中や水面に浮遊して水の動きのままに生活しているもの。ケイ藻などの植物プランクトンとミジンコのような動物プランクトンとがあり、大きさはミクロン単位のものからクラゲのようなものまである。魚などの餌として重要。
ふん便性大腸菌群数	ふんべんせいだいちょうきんぐんすう	人間および動物の腸管から排出される大腸菌と、この大腸菌と似た性質をもっている、土や水の中に広く分布している細菌を総称して大腸菌群数とよぶ。大腸菌は温血動物の腸管内に常住する細菌で、腸内では病原性をもたないが、尿路や胆道に入って炎症を起こすことがあり、小児では急性腸炎を起こす。ふん便中に大量に存在するので、ふん便汚染の指標となる。
mg/L		水1Lの中に含まれる物質の量を1,000分の1グラム(mg:ミリグラム)単位で表した量。
有機物	ゆうきぶつ	生物体を構成・組織する、炭素を主な成分とする物質。

用水	ようすい	飲料・灌漑・工業・発電・防火などのために、遠くから引いてくる水。または、ためてある水。
利水	りすい	河川の水を農業用水や都市用水に利用すること。
m ³ /日		1日の間に使ったり、排水する水の量を立方メートル単位で表した量。
流域	りゅういき	降雨や降雪がその河川に流入する全地域(範囲)のこと。集水区域と呼ばれることもある。
礫	れき	小さい石のこと。
ワークショップ		公園づくりや市街地整備などのまちづくりを行うときに、地域に関わる多様な立場の人々が参加し、参加者全員が各種の共同作業を行うことを通じて、合意形成を図りながら計画づくりを進めていく方法。

さいごうがわ
西郷川リバース基本計画

発行／平成13年3月 福岡県福岡市
〒811-3292 福岡県宗像郡福岡町中央一丁目1番1号
TEL 0940-42-1111(代表) FAX0940-43-3168
URL http://www.town.fukuma.fukuoka.jp/
E-mail kensetsu@town.fukuma.fukuoka.jp
企画協力／パシフィックコンサルタンツ株式会社